

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

岡 大 病 総 第 88 号
令和 4 年 10 月 3 日
開設者名 国立大学法人岡山大学長 榎野博史

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
氏名	国立大学法人岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

岡山大学病院

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号
電話(086)223-7151

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科及びリウマチ科で提供される医療については、内科で提供している。また、神経内科で提供される医療については、脳神経内科で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
呼吸器外科、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療については、外科で提供している。また、消化器外科で提供される医療については、消化管外科及び肝・胆・膵外科で提供している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有	
歯科と組み合わせた診療科名					
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科
歯科の診療体制					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	消化管外科	3	肝・胆・膵外科	4	形成外科	5	小児神経科
6	病理診断科	7	リハビリテーション科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34	2			817	853

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	341	291.5	632.5
歯科医師	89	69.7	158.7
薬剤師	65	0	65
保健師	0	0	0
助産師	30	0.7	30.7
看護師	979	10.2	989.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	15	0	15
管理栄養士	8	0.8	8.8

職種	員数
看護補助者	45
理学療法士	28
作業療法士	8
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	25
栄養士	0
歯科技工士	7
診療放射線技師	56

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	70
臨床検査衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	5
その他の技術員	47
事務職員	419
その他の職員	46

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	40	眼科専門医	8
外科専門医	34	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	10	放射線科専門医	9
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	26
泌尿器科専門医	4	麻酔科専門医	20
産婦人科専門医	14	救急科専門医	14
		合計	233

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (前田 嘉信) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

医療事故防止委員会委員 平成29年7月1日～令和元年5月31日

医療安全管理委員会委員 令和元年6月1日～令和3年3月31日

医療安全管理委員会委員長 令和3年4月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	543.9 人	15.3 人	559.2 人
1日当たり平均外来患者数	1,649.1 人	492.9 人	2,142.0 人
1日当たり平均調剤数	1,022.0		剤
必要医師数	151		人
必要歯科医師数	27		人
必要薬剤師数	19		人
必要(准)看護師数	352		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,161.6 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	60 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 236.1 m ² [移動式の場合] 台数 - 台		病床数	23 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 -					
化学検査室	362 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動化学発光免疫測定装置、生化学自動分析装置 外		
細菌検査室	130 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置、全自動細菌同定感受性検査装置、孵卵器 外		
病理検査室	439 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、クリオスタット 外		
病理解剖室	111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、遺体保存用冷蔵庫 外		
研究室	5,315 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ドラフトチャンバー、クリーンベンチ、冷蔵庫、冷凍庫、中央実験台 外		
講義室	969 m ²	鉄筋コンクリート	室数 6 室	収容定員	694 人	
図書室	1,938 m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	蔵書数	219,700 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		86.9	%	逆紹介率		106.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数					19,021	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数					25,947	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数					2,182	人
	D: 初診の患者の数					24,388	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会(会長)	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有するた め	無	1
長谷川 威	岡山中央法律事務所 (弁護士)		法律に関する識見を 有するため	無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子 大学 (名誉教授)		医療を受ける者の代表 者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	0
テモゾロミド用量強化療法	0
内視鏡的エタノール局所注入療法	9
マルチプレックス遺伝子パネル検査	26
先進医療の種類の合計数	4
取り扱い患者数の合計(人)	35

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては、健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名	患者申出療養 経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 全身麻酔導入後、通常は、RFA治療前にセンチネルリンパ節生検を施工する。RFAの手技はUSで腫瘍を確認し穿刺部位をまず決定する。続いて、US画像をガイドとして電極針を穿刺部位より腫瘍に刺入して、ジェネレーターというラジオ波発生装置に接続し、通電を開始する。1回の通電につき通常10分前後でインピーダンスが上昇し、通電完了する。通電終了後は電極針を抜去する。USを再度撮像し、治療効果および合併症の有無を観察し、治療終了となる。RFA施行後、数週間後より通常の乳房照射を追加し局所治療を終了する。			
医療技術名	患者申出療養 マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 本治療は、遺伝子パネル検査を受け、actionableな遺伝子異常を有することが判明した患者の申出に基づき、当該遺伝子異常に対応する適応外薬を患者申出療養制度に基づいて投与することを目的とする。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	6
取り扱い患者数の合計(人)	51

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	77
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	90
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	22
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	2
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	18
6	パーキンソン病	217	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
8	ハンチントン病	8	63	特発性血小板減少性紫斑病	12
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	82	66	IgA 腎症	50
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	36
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	42	68	黄色靱帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靱帯骨化症	67
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	28
17	多系統萎縮症	22	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	74	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	19
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	51	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	39
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	136
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	25	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	91
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	47
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	44
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	35	89	リンパ脈管筋腫症	14
35	天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	71
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	9
40	高安動脈炎	25	95	自己免疫性肝炎	31
41	巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	206
42	結節性多発動脈炎	10	97	潰瘍性大腸炎	380
43	顕微鏡的多発血管炎	40	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	29	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	203	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	94	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	73	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	28	107	若年性特発性関節炎	6
53	シェーグレン症候群	17	108	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	
54	成人スチル病	8	109	TNF受容体関連周期性症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	5	110	非典型溶血性尿毒症症候群	1
				ブラウ症候群	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	1
113	筋ジストロフィー	9	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシビタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	3
117	脊髄空洞症	8	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	182	アペール症候群	1
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	3
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	1	195	ヌーナン症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	3	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	2	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	3
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	209	完全大血管転位症	3
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	11
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	2
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	2
158	結節性硬化症	13	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3
159	色素性乾皮症	2	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
160	先天性魚鱗癬	2	215	ファロー四徴症	10
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	4
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4	217	エプスタイン病	3
163	特発性後天性全身性無汗症	0	218	アルポート症候群	2
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	1	220	急速進行性糸球体腎炎	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
221 抗糸球体基底膜腎炎	2	276 軟骨無形成症	1
222 一次性ネフローゼ症候群	39	277 リンパ管腫症/ゴーム病	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224 紫斑病性腎炎	7	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
225 先天性腎性尿崩症	0	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	281 クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	3
227 オスラー病	7	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
228 閉塞性細気管支炎	1	283 後天性赤芽球癆	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230 肺胞低換気症候群	0	285 ファンconi貧血	0
231 $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	2	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
232 カーニー複合	0	287 エプスタイン症候群	0
233 ウォルフラム症候群	0	288 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289 クロンカイト・カナダ症候群	2
235 副甲状腺機能低下症	2	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236 偽性副甲状腺機能低下症	1	291 ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292 総排泄腔外反症	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6	293 総排泄腔遺残	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
240 フェニルケトン尿症	1	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
241 高チロシン血症1型	0	296 胆道閉鎖症	8
242 高チロシン血症2型	0	297 アラジール症候群	1
243 高チロシン血症3型	0	298 遺伝性膝炎	0
244 メーブルシロップ尿症	0	299 嚢胞性線維症	0
245 プロピオン酸血症	0	300 IgG4関連疾患	9
246 メチルマロン酸血症	0	301 黄斑ジストロフィー	0
247 イソ吉草酸血症	0	302 レーベル遺伝性視神経症	0
248 グルコーストランスporter-1欠損症	0	303 アッシャー症候群	0
249 グルタル酸血症1型	0	304 若年発症型両側性感音難聴	0
250 グルタル酸血症2型	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
251 尿素サイクル異常症	1	306 好酸球性副鼻腔炎	43
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	307 カナバン病	0
253 先天性葉酸吸収不全	0	308 進行性白質脳症	0
254 ポルフィリン症	0	309 進行性ミオクローヌスてんかん	0
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310 先天異常症候群	0
256 筋型糖原病	0	311 先天性三尖弁狭窄症	0
257 肝型糖原病	0	312 先天性僧帽弁狭窄症	0
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313 先天性肺静脈狭窄症	0
259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314 左肺動脈右肺動脈起始症	0
260 シトステロール血症	0	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
261 タンジール病	0	316 カルニチン回路異常症	0
262 原発性高カイロミクロン血症	0	317 三頭酵素欠損症	0
263 脳腫黄色腫症	0	318 シトリン欠損症	0
264 無 β リポタンパク血症	0	319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265 脂肪萎縮症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266 家族性地中海熱	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
267 高IgD症候群	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
268 中條・西村症候群	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
270 慢性再発性多発性骨髄炎	2	325 遺伝性自己炎症疾患	0
271 強直性脊椎炎	10	326 大理石骨病	0
272 進行性骨化性線維異形成症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328 前眼部形成異常	0
274 骨形成不全症	4	329 無虹彩症	0
275 タナトフォリック骨異形成症	0	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 (旧病名(先天性気管狭窄症))	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	3	335	ネフロン癆	0
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0	336	家族性低 β リポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0	337	ホモシスチン尿症	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	143
合計患者数(人)	3156

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般)	・後発医薬品使用体制加算2
・特定機能病院入院基本料(精神科)	・病棟薬剤業務実施加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算
・医師事務作業補助体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算	・精神科急性期医師配置加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料4
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料3
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・新生児特定集中治療室管理料1
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・一類感染症患者入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料4
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・糖尿病合併症管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ハ	・精神科退院時共同指導料2
・外来緩和ケア管理料	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査
・生殖補助医療管理料1	・染色体検査の注2に規定する基準
・二次性骨折予防継続管理料1	・骨髓微小残存病変量測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1／2遺伝子検査
・下肢創傷処置管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・連携充実加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ニコチン依存症管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・国際標準検査管理加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・遺伝カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胎児心エコー法	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・ヘッドアップティルト試験	・外傷全身CT加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・心臓MRI撮影加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・乳房MRI撮影加算
・脳波検査判断料1	・小児鎮静下MRI撮影加算
・神経学的検査	・頭部MRI撮影加算
・補聴器適合検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ロービジョン検査判断料	・外来化学療法加算1
・コンタクトレンズ検査料1	・無菌製剤処理料
・小児食物アレルギー負荷検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・内服・点滴誘発試験	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音検査波融合画像によるもの)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・経気管支凍結生検法	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・がん患者リハビリテーション料
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・精神科作業療法
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・精密触覚機能検査	・人工腎臓
・睡眠時歯科筋電図検査	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・画像診断管理加算1	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・画像診断管理加算3	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・歯科画像診断管理加算1	・手術用顕微鏡加算
・歯科画像診断管理加算2	・口腔粘膜処置
・遠隔画像診断	・う蝕歯無痛の窩洞形成加算
・CT撮影及びMRI撮影	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・冠動脈CT撮影加算	・歯科技工加算1及び2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・センチネルリンパ節加算	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・皮膚移植術(死体)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行い場合に限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・椎間板内酵素注入療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を越えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・同種死体肺移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・生体部分肺移植術
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術needle法))	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・網膜再建術	・内視鏡下筋層切開術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・人工中耳植込術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胸腔鏡下弁形成術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・胸腔鏡下弁置換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的な隔心筋焼灼術	・生体部分肝移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・同種死体肝移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・生体部分小腸移植術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・同種死体小腸移植術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器をもちいるもの)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・生体腎移植術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・精巣内精子採取術
・体外衝撃波胆石破碎術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下仙骨腫固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術要支援機器を用いる場合)	・口腔粘膜血管腫凝固術
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・麻酔管理料(II)
・体外式膜型人工肺管理料	・周術期薬剤管理加算
・尿道形成手術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・歯科麻酔管理料
・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・放射線治療専任加算
・陰茎形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・外来放射線治療加算
・陰茎全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・高エネルギー放射線治療
・精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・一回線量増加加算
・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・造脛術、脛閉鎖詳述(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・輸血管理料 I	・デジタル病理画像による病理診断
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・病理診断管理加算2
・コーディネート体制充実加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・同種クリオプレシビート作製術	・口腔病理診断管理加算2
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・歯周組織再生誘導手術	・歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	120回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	5
	剖検率(%)	1.7

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腫瘍免疫活性化遺伝子REICによる肺癌の革新的免疫療法の開発	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	4,160,000	補	日本学術振興会
代謝チェックポイントを中心とした腸管組織免疫寛容性の解明と治療開発	藤原 英晃	血液・腫瘍内科	5,720,000	補	日本学術振興会
神経操作と生体イメージングによる白血病-神経-循環連関の解明	浅田 騰	血液・腫瘍内科	6,240,000	補	日本学術振興会
HER2遺伝子変異肺がんにおける革新的なHER2標的治療法の開発	二宮 貴一郎	呼吸器・アレルギー内科	910,000	補	日本学術振興会
ケモカイン抑制能を強化した新規間葉系幹細胞による慢性閉塞性肺疾患の細胞療法開発	宮原 信明	呼吸器・アレルギー内科	1,170,000	補	日本学術振興会
糖尿病性腎症における糖鎖異常とその病態的意義	和田 淳	腎・免疫・内分泌代謝内科	4,290,000	補	日本学術振興会
膵癌微小環境のクロストークによる免疫抑制を標的とする次世代ウイルス製剤の開発研究	藤原 俊義	消化管外科	2,470,000	補	日本学術振興会
ダメージ関連分子パターンに着眼した肺線維化関連疾患に対する新規治療法の開発	豊岡 伸一	呼吸器外科	5,200,000	補	日本学術振興会
解剖生理学エビデンスに基づく下肢リンパ浮腫の画像機能評価と新たな手術戦略	木股 敬裕	形成外科	10,010,000	補	日本学術振興会
リンパ浮腫画像診断に基づいた新・複合的理学療法-AI技術によるキャズム克服	品岡 玲	形成外科	6,630,000	補	日本学術振興会
ドライバー遺伝子陽性肺癌が依存するパスウェイを標的とした次世代精密医療の開発	富田 秀太	ゲノム医療総合推進センター	5,590,000	補	日本学術振興会
細胞骨格ダイナミクスに基づく分子輸送制御システムの解明と革新的癌創薬への新展開	渡部 昌実	新医療研究開発センター	7,540,000	補	日本学術振興会
輸送幹細胞の肺組織内集積反応により遊出される心筋再生促進因子の同定と実用化研究	王 英正	新医療研究開発センター	5,070,000	補	日本学術振興会
シナジー効果探索手法の構築と医療情報データベースへの適用	座間味 義人	薬剤部	13,520,000	補	日本学術振興会
細胞外小胞の口腔トロピズムを基軸とする侵襲性歯周炎の病態解明と診断への応用展開	山本 直史	歯科(歯周科部門)	3,900,000	補	日本学術振興会
コラーゲン結合型FGF-2による水平性歯槽骨吸収に対する歯周組織再生療法の開発	高柴 正悟	歯科(歯周科部門)	9,620,000	補	日本学術振興会
時空間的トランスクリプトーム解析・iPS干渉法を応用した歯の再生技術の開発	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科部門)	18,070,000	補	日本学術振興会
基底膜構成分子の誘導制御による低侵襲角化歯肉獲得療法の確立	前川 賢治	歯科(口腔インプラント科部門)	3,250,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Mφオートファジー異常から見た歯周病やインプラント周囲炎の新規治療戦略	秋山 謙太郎	歯科(口腔インプラント科部門)	7,540,000	補	日本学術振興会
顎関節症ならびに疲労愁訴を伴う疾患における, AIを用いた筋疲労の定量評価	皆木 省吾	歯科(補綴歯科部門)	2,860,000	補	日本学術振興会
生体ボリュームイメージ解析を用いた骨細胞のメカノセンサー機能獲得過程の解明	上岡 寛	矯正歯科	3,900,000	補	日本学術振興会
民族移動のボトルネック経過後の食物、環境の変化による顔面形成の共進化について	上岡 寛	矯正歯科	2,600,000	補	日本学術振興会
顎顔面領域骨代謝性疾患におけるエピゲノム制御による新規骨リモデリング機構の解明	井澤 俊	矯正歯科	3,770,000	補	日本学術振興会
マイクロRNAを切り口とした歯周病・糖尿病によるアルツハイマー病への影響	江國 大輔	歯科(予防歯科部門)	2,730,000	補	日本学術振興会
膜タンパクをターゲットとした新たな口腔バイオフィルム制御法の確立	仲野 道代	小児歯科	5,460,000	補	日本学術振興会
糖鎖変化による肝癌進展機序の解明	大西 秀樹	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
プロテオーム解析に基づくエクソソームを用いたIPMN良悪性診断法の開発	堤 康一郎	消化器内科	910,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎患者における免疫学的便潜血検査自宅測定の有用性の検討	平岡 佐規子	炎症性腸疾患センター	1,690,000	補	日本学術振興会
正常・腫瘍オルガノイドモデルを活用した胆道癌の高精度早期診断法の開発	加藤 博也	光学医療診療部	1,300,000	補	日本学術振興会
大腸内視鏡挿入支援を実現する空圧駆動高柔軟ラバーアクチュエータの開発	原田 馨太	消化器内科	2,730,000	補	日本学術振興会
炎症性腸疾患関連腫瘍に対する非侵襲的核酸変異検出術の開発	衣笠 秀明	光学医療診療部	1,300,000	補	日本学術振興会
CD4T細胞の代謝制御を標的にした炎症性腸疾患新規治療薬の開発	高原 政宏	光学医療診療部	1,560,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤の有効性予測バイオマーカー開発ー血中自己抗体の可能性ー	松本 和幸	光学医療診療部	1,170,000	補	日本学術振興会
肥満・代謝改善を目的とした内視鏡的胃筋層神経叢切開術の確立	山崎 泰史	消化器内科	4,290,000	補	日本学術振興会
難治性悪性リンパ腫の分子病態の解明と新規治療法の探索	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	520,000	補	日本学術振興会
「persister」がん細胞マウスモデルによる肺癌の根治的薬物療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補	日本学術振興会
急性白血病患者に対する安全な卵巣組織移植を目指した卵巣内微小残存病変評価法の開発	藤井 伸治	輸血部	1,170,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
移植急性期のB細胞恒常性異常に基づく慢性GVHD発症予測と先制的治療法の開発	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	1,300,000	補	日本学術振興会
新規ハウ素製剤による同種造血幹細胞移植後の閉塞性細気管支炎治療の開発	西森 久和	血液・腫瘍内科	910,000	補	日本学術振興会
SHP2による薬剤toleranceを標的とした肺がん根治的治療の開発	市原 英基	呼吸器・アレルギー内科	1,430,000	補	日本学術振興会
神経ペプチドNPYによる同種造血幹細胞移植後の非感染性呼吸器合併症治療の開発	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	日本学術振興会
急性移植片対宿主病の重篤化抑制を目的としたデブレノン併用免疫抑制療法の開発	藤井 敬子	検査部	1,950,000	補	日本学術振興会
同種造血細胞移植後GVHDと腸内細菌叢dysbiosisの発症機序解明と治療応用	藤原 英晃	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアダイナミクスにおけるバスピンの意義と腎尿細管間質障害の制御	中司 敦子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690,000	補	日本学術振興会
脂肪組織の機能不全を制御する新規蛋白の同定と病態生理的意義	江口 潤	腎・免疫・内分泌代謝内科	1,300,000	補	日本学術振興会
N型カルシウムチャンネルが腹部大動脈瘤発症・進展に与える分子機構の解明	内田 治仁	腎・免疫・内分泌代謝内科	1,430,000	補	日本学術振興会
IgA腎症における尿中糖鎖異常と病態の解明	大西 康博	血液浄化療法部	1,560,000	補	日本学術振興会
慢性腎臓病に対するVasohibin-2ペプチドワクチン療法の有効性の検討	田邊 克幸	血液浄化療法部	1,430,000	補	日本学術振興会
傷害糸球体のポドサイトに作用する血小板分子CLEC-2の効果	田中 景子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補	日本学術振興会
マイクロRNA解析による特発性ネフローゼ症候群の病態解明と新規治療薬の開発	辻 憲二	腎・免疫・内分泌代謝内科	1,040,000	補	日本学術振興会
副腎皮質におけるBMPシステムの役割と血圧調整への作用	原 孝行	腎・免疫・内分泌代謝内科	1,820,000	補	日本学術振興会
ゴナドトロピン分泌へのRNA結合タンパクZFP36の役割について	寺坂 友博	内分泌センター	1,560,000	補	日本学術振興会
2型糖尿病患者CD8陽性T細胞の細胞老化と機能低下に対する機序の検討	野島 一郎	腎臓・糖尿病・内分泌内科	910,000	補	日本学術振興会
関節リウマチの病態におけるユビキチン修飾を介したT細胞内シグナル制御の役割	勝山 隆行	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,340,000	補	日本学術振興会
全身性エリテマトーデスの病態におけるT細胞とTankyraseの役割	勝山 隆行	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
自己抗体を通した精神疾患のディメンショナルアプローチ	高木 学	精神科神経科	1,170,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腸内細菌叢のマルチオミクス解析による統合失調症の病態解明	岡久 祐子	精神科神経科	2,210,000	補	日本学術振興会
てんかんと認知症疾患の統合的研究	竹之下 慎太郎	精神科神経科	1,950,000	補	日本学術振興会
術後せん妄のサブタイプに着目した病態機序解明と新規バイオマーカーの確立	酒本 真次	精神科神経科	2,340,000	補	日本学術振興会
がん治療格差のある障碍を抱える人に、標準治療を届ける介入の実装を目指した基盤研究	藤原 雅樹	精神科神経科	1,430,000	補	日本学術振興会
小児重症急性腎障害の病態解析と新規治療法の開発～生体マーカーを基軸として～	塚原 宏一	小児科	650,000	補	日本学術振興会
自然免疫炎症メディエーターをターゲットとしたインフルエンザ脳症の新規治療の探索	津下 充	小児科	1,040,000	補	日本学術振興会
HMGB1-HRGバランスに着目した川崎病新規治療薬の開発	馬場 健児	IVRセンター	780,000	補	日本学術振興会
うっ血性肝硬変に対する再生医療としての間葉系幹細胞移植療法	平井 健太	小児科	780,000	補	日本学術振興会
小児長期入院患者に対する1.5次予防型心理的・社会的支援プログラムの構築	重安 良恵	小児科	780,000	補	日本学術振興会
乳幼児の認知機能発達を阻害する病態要因に関わる研究	小林 勝弘	小児神経科	1,300,000	補	日本学術振興会
ビタミンB6依存性てんかんの早期診断体制構築に向けたバイオマーカーの測定と探索	秋山 倫之	小児神経科	1,560,000	補	日本学術振興会
脳波のネットワーク解析による小児てんかん性脳症の病態の解明	柴田 敬	小児神経科	1,820,000	補	日本学術振興会
難治性消化器がんを標的としたホウ素中性子捕捉療法の開発と効果予測マーカーの探索	寺石 文則	低侵襲治療センター	1,170,000	補	日本学術振興会
組織内不均一性を有するHER2陽性胃癌に有効な金ナノ粒子結合抗体薬物複合体の開発	黒田 新士	消化管外科	1,560,000	補	日本学術振興会
Liquid Biopsyによる肝内胆管癌molecular subtype分類	楳田 祐三	肝・胆・膵外科	780,000	補	日本学術振興会
がん微小環境に対するPhotoimmunotherapyの前臨床研究	野間 和広	消化管外科	1,040,000	補	日本学術振興会
DNAとRNAによる複合バイオマーカーパネルを用いた膵癌治療アルゴリズムの構築	吉田 龍一	消化管外科	1,370,000	補	日本学術振興会
CAFsとPD1/PD-L1系との関連に対する探索的研究	田邊 俊介	消化管外科	910,000	補	日本学術振興会
腫瘍選択的融解アデノウイルスのエクソソームを介した直接的なアブスコパル効果の検討	垣内 慶彦	低侵襲治療センター	2,340,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
RNA編集でCold tumorをHot tumorにする新規免疫療法の探求	重安 邦俊	低侵襲治療センター	1,430,000	補	日本学術振興会
p53発現腫瘍融解アデノウイルス製剤と既存化学療法との免疫学的治療効果の比較	橋本 将志	消化管外科	1,800,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるRNA編集に基づく発症機序解明と発癌予測バイオマーカーの探求	近藤 喜太	消化管外科	1,170,000	補	日本学術振興会
HER2標的薬に対する乳癌細胞の獲得耐性克服を目指した治療戦略の開発	枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	1,690,000	補	日本学術振興会
肺虚血再灌流障害におけるS100A8/A9の役割の解明と新しい治療法の開発	岡崎 幹生	呼吸器外科	1,430,000	補	日本学術振興会
肺移植後早期グラフト機能不全に対する体内肺還流法による新規治療の開発	三好 健太郎	呼吸器外科	1,560,000	補	日本学術振興会
三次元培養により出現する腫瘍細胞の特性解析に基づいた新規肺がん治療標的の探索	山本 寛斉	呼吸器外科	2,080,000	補	日本学術振興会
MET異常肺癌に対する新規治療戦略の開発	諏澤 憲	呼吸器外科	1,040,000	補	日本学術振興会
心停止ドナーからの肺移植後虚血再灌流障害のトランスレーショナルリサーチと治療応用	岡崎 幹生	呼吸器外科	3,770,000	補	日本学術振興会
乾癬病変部表皮角化細胞産生EBI3含有サイトカインに関する研究	森実 真	皮膚科	1,690,000	補	日本学術振興会
表皮角化細胞Toll様受容体3を標的とした皮膚ウイルス感染症の新規外用薬の開発	天田 藍 (梶田 藍)	皮膚科	1,820,000	補	日本学術振興会
種痘様水疱症の早期治療介入マーカーとγδ T細胞による重症化制御機構の検討	三宅 智子	皮膚科	520,000	補	日本学術振興会
遺伝子改変マウスを用いた乾癬病変部表皮角化細胞産生EBI3の病態関与の解析	野村 隼人	皮膚科	3,510,000	補	日本学術振興会
膀胱癌に対する革新的アブレーション技術の確立と応用展開	枝村 康平	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
PDE5阻害薬タダラフィルは腎虚血再還流障害の革新的治療となるか？	荒木 元朗	泌尿器科	1,560,000	補	日本学術振興会
スタチンのMMP阻害による好中球浸潤を介した腎保護の証明	吉永 香澄	泌尿器科	1,690,000	補	日本学術振興会
治療抵抗性前立腺癌における癌化-ステロイドシグナルaxisの機構解明	小林 泰之	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
新機序にもとづくエフェクターT細胞活性化と革新的癌創薬への展開	定平 卓也	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
乳酸菌バイオサーファクタントを用いた反復性/難治性膀胱炎の予防的治療の新戦略	岩田 健宏	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
末期腎不全における皮膚色素沈着原因物質の同定と除去カラムの開発	丸山 雄樹	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
ISPSを用いた精巣内薬剤投与による造精機能障害治療	富永 悠介	泌尿器科	1,560,000	補	日本学術振興会
難治性網膜疾患に対する網膜下薬物投与の検討	木村 修平	眼科	1,690,000	補	日本学術振興会
網膜色素上皮細胞におけるカリウムチャネルKir7.1の機能解明	森實 祐基	眼科	1,040,000	補	日本学術振興会
網膜に対するメカニカルストレスの分子生物学的機構の解明	塩出 雄亮	眼科	1,300,000	補	日本学術振興会
ゲノム編集技術を用いたレーバー先天黒内障の病態解明	細川 海音	眼科	1,430,000	補	日本学術振興会
網膜前増殖組織の牽引力の差異を生む分子生物学的背景の解明	的場 亮	眼科	1,300,000	補	日本学術振興会
En face OCT画像と深層学習を用いた黄斑上膜の手術適応基準の策定	土居 真一郎	眼科	2,990,000	補	日本学術振興会
メカニカルストレスが網膜に及ぼす影響の電気生理学および細胞生物学的検討	野田 拓志	眼科	1,560,000	補	日本学術振興会
急性感音難聴の病態と治療における内耳免疫メカニズム-内耳遺伝子転写網の解析-	前田 幸英	耳鼻咽喉科	330,000	補	日本学術振興会
加齢性難聴マウスにおける炎症性サイトカインの内耳ゲノム発現網	假谷 伸	耳鼻咽喉科	1,300,000	補	日本学術振興会
がん遺伝子シグナル経路の網羅的解析による頭頸部がんの病態解析と新規治療法の開発	牧野 琢丸	耳鼻咽喉科	1,170,000	補	日本学術振興会
嗅細胞障害による異嗅症の分子学的治療戦略	村井 綾	耳鼻咽喉科	1,170,000	補	日本学術振興会
新遺伝子導入法による遺伝性難聴治療モデルの開発-Dual Vector法の応用-	大道 亮太郎	耳鼻咽喉科	2,730,000	補	日本学術振興会
アルギン酸ゲルを使用した新規血管内塞栓材料の開発～長期有効性および安全性の評価～	宇賀 麻由	放射線科	130,000	補	日本学術振興会
子宮体部癌肉腫新規革新的新規治療戦略の構築	中村 圭一郎	産科婦人科	780,000	補	日本学術振興会
周産期からの先制医療にむけた代謝エピゲノムの解析とバイオマーカーの開発	増山 寿	産科婦人科	1,430,000	補	日本学術振興会
糖尿病妊婦の個人の代謝に合わせた、合併症を抑制するテーラーメイド栄養管理の開発	衛藤 英理子	産科婦人科	1,040,000	補	日本学術振興会
糖代謝異常によって誘導されるPKC β 活性化の妊娠高血圧腎症発症と増悪における意義	光井 崇	産科婦人科	1,040,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
子宮平滑筋肉腫の新規革新的治療戦略の構築	松岡 敬典	産科婦人科	1,820,000	補	日本学術振興会
術後せん妄と周術期二酸化炭素管理の関連について	鈴木 聡	集中治療部	1,170,000	補	日本学術振興会
一酸化窒素吸入は中大脳動脈閉塞ラットの神経学的予後を改善させるか？	谷西 秀紀	麻酔科蘇生科	1,300,000	補	日本学術振興会
大動物敗血症モデルを用いた敗血症性腎傷害発生・進展メカニズムの解明	小坂 順子	麻酔科蘇生科	910,000	補	日本学術振興会
高度侵襲手術における血漿タンパクHRGの変動	黒田 浩佐	麻酔科蘇生科	1,300,000	補	日本学術振興会
くも膜下出血後早期脳損傷の病態解明と脳低温療法の脳保護効果の検討	菱川 朋人	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
カプセル化細胞移植で細胞治療のメカニズムに迫る:脳梗塞後うつ症状への応用	安原 隆雄	脳神経外科	1,170,000	補	日本学術振興会
グリオーマにおける免疫微小環境関連germlineバリエーションの解析	杉生 憲志	IVRセンター	1,560,000	補	日本学術振興会
パーキンソン病に対する迷走神経刺激療法の治療開発を目指す	佐々木 達也	脳神経外科	1,300,000	補	日本学術振興会
腫瘍幹細胞と分化型腫瘍細胞を同時標的とした膠芽腫治療戦略の開発	藤井 謙太郎	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
単細胞解析による免疫抑制骨髄系細胞分化機序の解明と、新規腫瘍溶解ウイルスの開発	大谷 理浩	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
ミャンマーのカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌を分子疫学・地政学的視点で解明する	萩谷 英大	総合内科・総合診療科	1,300,000	補	日本学術振興会
BMPとリズム調節因子による生殖内分泌調節メカニズムの探索と応用	大塚 文男	総合内科・総合診療科	1,040,000	補	日本学術振興会
医学における「ビジュアルアート教育」に関する調査研究	小比賀 美香子	総合内科・総合診療科	1,820,000	補	日本学術振興会
総合診療における高IgG4血症の臨床的および血清学的特徴の解析	長谷川 功	総合内科・総合診療科	650,000	補	日本学術振興会
膵臓内細菌と腺房導管異形成に着眼した膵癌発生メカニズムの解明	赤穂 宗一郎	総合内科・総合診療科	1,300,000	補	日本学術振興会
尿毒素による心不全発症・再発の病態解明と新規治療戦略の基盤構築	伊藤 浩	循環器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
特発性肺動脈性肺高血圧症由来肺動脈平滑筋細胞のエネルギー代謝の解明と治療薬の開発	赤木 達	循環器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
本邦での妊娠中の抗凝固薬・抗血小板薬の投与実情についての調査	杜 徳尚	循環器内科	1,300,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
デジタル心電データを用いた不整脈ストーム化の予測と心臓突然死予防	森田 宏	循環器内科	1,690,000	補	日本学術振興会
大動脈解離におけるメカノバイオロジー機構の解明	三好 亨	循環器内科	2,730,000	補	日本学術振興会
経胸壁心エコー図で奇異性脳塞栓症に関連する卵円孔開存を診断する研究	高谷 陽一	超音波診断センター	1,040,000	補	日本学術振興会
心血管メカノセンサーTRPV2の低酸素誘発性肺高血圧症への関与解明と治療法開発	中村 一文	循環器内科	2,730,000	補	日本学術振興会
重症心不全に伴う二次性臓器障害の可逆性と予測指標の検討	岩崎 慶一郎	循環器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
炎症の可視化による、非アルコール性脂肪性肝疾患における冠動脈疾患の病態解明	市川 啓之	循環器内科	1,820,000	補	日本学術振興会
iPS細胞由来右室心筋を用いたBrugada症候群の病態解析	斎藤 幸弘	循環器内科	2,730,000	補	日本学術振興会
閉塞性動脈硬化症患者に対するレジスタンストレーニングを組み合わせた運動療法の開発	戸田 洋伸	循環器内科	3,640,000	補	日本学術振興会
人工心肺使用手術が生体のHMGB1/HRG バランスに与える影響の網羅的検討	大澤 晋	心臓血管外科	1,560,000	補	日本学術振興会
β 3受容体作動薬の心筋虚血再灌流に及ぼす影響	黒子 洋介	心臓血管外科	1,040,000	補	日本学術振興会
DLCコーティングが血中エクソソームとHMGB1を介した異物反応に与える影響解析	辻 龍典	心臓血管外科	1,820,000	補	日本学術振興会
単心室症における急性右心不全に対する補助循環の検討	小谷 恭弘	心臓血管外科	650,000	補	日本学術振興会
心停止ドナーの心移植を目的とした心機能評価装置を搭載した体外式搬送システムの開発	廣田 真規	心臓血管外科	1,040,000	補	日本学術振興会
マラソン心事故予防に向けたAI解析による致死性不整脈の予知アルゴリズム構築	笠原 真悟	心臓血管外科	1,950,000	補	日本学術振興会
抗HMGB1モノクローナル抗体による大動脈手術後対麻痺予防効果の検討	村岡 玄哉	心臓血管外科	910,000	補	日本学術振興会
Force-Length Relationによる単離ヒト心筋細胞の機能評価	小松 弘明	心臓血管外科	1,560,000	補	日本学術振興会
DLCコーティングによるワーファリン不要機械弁の開発	衛藤 弘城	心臓血管外科	1,950,000	補	日本学術振興会
SGLTが心筋虚血再灌流障害に与える影響の検討	横田 豊	心臓血管外科	780,000	補	日本学術振興会
ファロー四徴症における右室流出路狭窄の病態発生機序の解明と予後予測マーカーの開発	小林 純子	心臓血管外科	260,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
安全かつ高効率誘導を実現する新世代型ダイレクトリプログラミング法の総合的開発	山下 徹	脳神経内科	1,170,000	補	日本学術振興会
インソール型圧力センサで計測した歩行パターンによるパーキンソン病重症度推定の研究	武本 麻美	脳神経内科	1,040,000	補	日本学術振興会
慢性脳低血流がアルツハイマー病に及ぼす影響と抗酸化機能食品による保護的効果の検討	福井 裕介	脳神経内科	1,560,000	補	日本学術振興会
FUS相転移を制御するアルギニンメチル化の解明	森原 隆太	脳神経内科	2,470,000	補	日本学術振興会
ARDS亜急性期～慢性期の水素吸入による肺線維化抑制効果:モデルマウスによる検証	青景 聡之	救急救命科	1,300,000	補	日本学術振興会
水素豊富食塩水管腔内投与による小腸移植グラフト保存への新しいアプローチ	中尾 篤典	高度救命救急センター	1,430,000	補	日本学術振興会
心停止後症候群に対する33℃と35℃の目標温度管理の神経学的予後に関する比較	内藤 宏道	高度救命救急センター	1,040,000	補	日本学術振興会
水素吸入によるクラッシュ症候群に対する革新的治療の開発	湯本 哲也	救急救命科	651,365	補	日本学術振興会
肺毛細血管内皮細胞障害に対する水素ガスの有効性の検討	山田 太平	救急救命科	390,000	補	日本学術振興会
マウスを用いた水素吸入療法による肺挫傷の新規治療法の開発	塚原 紘平	救急救命科	520,000	補	日本学術振興会
CORMを使った小腸グラフト虚血再灌流障害の予防	小原 隆史	救急救命科	1,430,000	補	日本学術振興会
安全で有効な人工呼吸管理を行うための新規喀痰評価指標の開発のための調査研究	平山 隆浩	救急救命科	1,300,000	補	日本学術振興会
高機能化3D幹細胞塊の付加による新規脂肪移植法の開発	中桐 僚子	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
筋容積損失治療を指向したスキャホールドフリー・生体模倣立体筋組織体の創出	北口 陽平	形成外科	1,300,000	補	日本学術振興会
頭蓋形態に対する一般化容易な定量的解析法の確立と日本人小児における標準値の作成	妹尾 貴矢	形成外科	1,560,000	補	日本学術振興会
肋骨付き前鋸筋弁の新たな展開と選択的逆行性穿通枝造影法の確立	松本 洋	形成外科	390,000	補	日本学術振興会
幹細胞産生因子を用い形成する脂肪移植至適環境の開発	太田 智之	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
性別違和を有する者の生きづらさの可視化:アンケート調査による治療評価法の確立	難波 祐三郎	ジェンダーセンター	910,000	補	日本学術振興会
体外式膜型人工肺と血中カルボキシヘモグロビン濃度との関連	木村 聡	麻酔科蘇生科	1,560,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
3次元マルチオミックス解析による糖尿病性腎症の新規治療標的の探索と同定	宮本 聡	新医療研究開発センター	260,000	補	日本学術振興会
EGFR肺癌における第3世代EGFR-TKI耐性へのIL-6の関与と克服の検討	堀田 勝幸	新医療研究開発センター	1,690,000	補	日本学術振興会
インフラマソームを制御することによる糖尿病性腎症の新規治療法の開発	四方 賢一	新医療研究開発センター	1,300,000	補	日本学術振興会
人工知能による深層学習を応用した運動障害性咀嚼障害の多軸診断支援システムの開発	大野 彩 (木村 彩)	新医療研究開発センター	1,430,000	補	日本学術振興会
先進医療Bの薬事承認申請活用に関する品質確保のための研究	櫻井 淳	新医療研究開発センター	910,000	補	日本学術振興会
膵臓癌に対する癌特異的p53遺伝子治療を阻害する代謝因子の探索と個別化治療の開発	田澤 大	新医療研究開発センター	1,300,000	補	日本学術振興会
T細胞受容体レパトアからひも解くPD-L1陰性乳がん免疫誘導療法の機能解析	岩本 高行	新医療研究開発センター	910,000	補	日本学術振興会
COVID-19診療現場の看護師が抱える心理的負担の要因	坂本 陽子	新医療研究開発センター	910,000	補	日本学術振興会
臨床試験/治験に参加する患者の就労支援のありかたに関する研究	難波 志穂子	新医療研究開発センター	910,000	補	日本学術振興会
インプラント周囲の骨吸収発生予知を目的とした歯槽骨骨密度評価の有用性の検討	黒崎 陽子	新医療研究開発センター	1,040,000	補	日本学術振興会
iPS肺がんオルガノイドモデルを用いた新規治療法の開発	枝園 和彦	新医療研究開発センター	1,040,000	補	日本学術振興会
QOLの解釈可能性を高めるMIDの設定とフィードバックのためのウェブシステム開発	宮脇 義亜	新医療研究開発センター	780,000	補	日本学術振興会
ジャポニカアレイを応用した肺移植後慢性拒絶反応の新しい診断法の開発	杉本 誠一郎	臓器移植医療センター	1,430,000	補	日本学術振興会
ロボット支援下肝胆膵高難度手術におけるトレーニングプログラムの開発	高木 弘誠	臓器移植医療センター	910,000	補	日本学術振興会
Uncontrolled 心停止ドナー肺の活用改善を可能とする新肺保護法の開発	田中 真	臓器移植医療センター	1,560,000	補	日本学術振興会
女性医師支援が職場の意識と働き方、地域医療に及ぼす影響についての解析	片岡 仁美	ダイバーシティ推進センター	1,040,000	補	日本学術振興会
放射線う蝕の治療法の確立に向けたセルフエッチング接着システムの基礎的研究	松崎 久美子 (田中 久美子)	歯科(保存歯科部門)	910,000	補	日本学術振興会
アルカリ産生性アクチノマイセス属細菌を応用したう蝕管理法の確立	大原 直子	歯科(保存歯科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
超高齢社会での応用を目指す低分子化合物terreinの標的分子の同定・機能解析	大森 一弘	歯科(歯周科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
APPLICATION OF RvD2 AS A REGENERATIVE DIRECT PULP CAPPING MATERIAL	アリアス・マルティネス スレマ・ロサリア	歯科(歯周科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
歯周病原細菌の感染とタンパク質シトルリン化を介する関節リウマチの病態解明	畑中 加珠	歯科(歯周科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
プロトンポンプ阻害剤服用時に歯周病原細菌が腸内細菌叢へ及ぼす影響	平井 公人	歯科(歯周科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
骨代謝におけるAdam10の機序の解明とそれを応用した新規骨関連事象抑制薬の開発	池田 淳史	歯科(歯周科部門)	1,950,000	補	日本学術振興会
天然由来レクチンを用いた唾液アミラーゼ糖結合性の探索と解明	伊東 有希 (信田 有希)	歯科(歯周科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
妊娠成立に及ぼす歯周組織の感染と炎症の影響:機序解明に向けた基礎的検討	佐光 秀文	歯科(歯周科部門)	2,210,000	補	日本学術振興会
HMGB1が歯周病に及ぼす免疫学的影響の解明とその制御による新規歯周病治療の検討	井手口 英隆	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
血中細胞外小胞由来マイクロRNAを標的とした侵襲性歯周炎の炎症メカニズムの解明	河本 美奈	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
真菌二次代謝産物Terreinの薬剤関連性顎骨壊死病態に及ぼす影響の免疫学的検討	坂井田 京佑	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
咀嚼が認知機能に与える影響の検討および認知症早期診断バイオマーカーの網羅的探索	三野 卓哉	歯科(口腔インプラント科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
オーラルフレイル回避を目指した筋機能訓練の有効性検討と新規個別スキームの開発	水口 一	歯科(口腔インプラント科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の骨髄微小環境と大腸菌由来BMP-2の応用	縄稚 久美子	歯科(口腔インプラント科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
機械学習を応用した咀嚼機能低下を精度高く検出する新規検査方法, 評価基準の開発	水口 真実	歯科(口腔インプラント科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
変形性関節症におけるエピジェネティクスを介したWISP1遺伝子発現制御機構の解明	前田 あずさ	歯科(口腔インプラント科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
病的歯槽骨吸収の疾患定義とその原因遺伝子同定のためのゲノムワイド関連解析	中川 晋輔	歯科(口腔インプラント科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
顎関節症症状の難治化に関するリスク因子の解明および予測指標の開発	三木 春奈	歯科(口腔インプラント科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌による慢性腎臓病感染症発症メカニズム解明と口腔内環境との関連	小山 絵理	歯科(口腔インプラント科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
人工知能による深層学習を応用した四次元咀嚼・嚥下機能診断システムの構築	樋口 隆晴	歯科(口腔インプラント科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
血管基底膜の加齢性変化に伴うCAR細胞老化に起因した骨髄老化メカニズムの解明	石橋 啓	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MSCs・Mφ相互作用による組織再生起点メカニズム解明と組織再生加速技術の開発	田頭 龍二	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
隠れマルコフモデルに基づいた睡眠時ブラキシズム検査における筋電図波形識別の試み	大森 江	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
難治性インプラント周囲炎に対するBMP-2含有人工骨膜を応用した治療法の開発	納所 秋二	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
内在性MSCsの免疫調節能障害メカニズムの解明とインプラント周囲炎の新規治療戦略	黄野 頂策	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
光遺伝子操作技術を応用したBMP-2の新規機能・骨髄形成能の解明	田仲 由希恵	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
咀嚼機能の概念革新のための咬筋特異的マイオカインの探索	北川 若奈	歯科(口腔インプラント科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
iPS干渉法を利用した間葉系幹細胞の幹細胞性制御機構の解明	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
歯根膜刺激が減少すると海馬錐体細胞が減少するメカニズムの解明 青斑を介した伝導路	原 哲也	歯科(補綴歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
多官能アクリレート結合型長鎖シランカップリング剤の創出と応用	丸尾 幸憲	歯科(補綴歯科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
高齢者の嚥下機能低下を防止する頸部表面筋電図を応用した日常運動の創製	萬田 陽介	歯科(補綴歯科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
CCN3を介した新たな軟骨細胞老化制御機構の解明	桑原 実穂	歯科(補綴歯科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
デンチャースペースの記録を可能にした新規CAD/CAM義歯製作方法の開発	徳善 貴大	歯科(補綴歯科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
AIによる画像解析技術を応用した新規咀嚼能力評価システムの構築	杉本 皓	歯科(補綴歯科部門)	2,470,000	補	日本学術振興会
アルツハイマーモデルマウスを用いた咬合支持の欠如によるアミロイドβ沈着の変化	村上 明日香	歯科(補綴歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
I型インターフェロンが顎顔面の形態形成に及ぼす影響	早野 暁	矯正歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
下顎骨後方移動術に伴う睡眠呼吸障害の発症リスクおよび施術基準の確立	中村 政裕	矯正歯科	1,430,000	補	日本学術振興会
生体マルチモーダル解析を用いた骨形成・認知機能の複合的促進機構の解明	植田 紘貴	矯正歯科	1,170,000	補	日本学術振興会
歯槽骨の大規模三次元イメージングによる歯牙移動時の歯槽骨改造の解明	中條 真奈 (橋本 真奈)	矯正歯科	1,040,000	補	日本学術振興会
喫煙によるダイオキシン受容体を介した口腔組織修復の破綻メカニズム解明への挑戦	井澤 俊	矯正歯科	2,600,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Hotz床治療による能動的顎誘導に向けた有限要素解析の応用	飯田 征二	口腔外科(顎口腔 再建外科部門)	780,000	補	日本学術振 興会
分子標的治療薬が関連する顎骨壊死の実験 モデルと分子基盤の確立	天野 克比古	口腔外科(顎口腔 再建外科部門)	1,170,000	補	日本学術振 興会
新規破骨細胞形成促進因子Angiogeninが口 腔癌骨浸潤に果たす役割の解明	伊原木 聡一郎	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,430,000	補	日本学術振 興会
神経ペプチドCGRPは口腔癌の骨破壊を制御 する新たな標的となり得るか?	吉岡 徳枝	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,560,000	補	日本学術振 興会
人工知能を用いた口腔癌頸部リンパ節転移の 診断システムの開発	小畑 協一	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,040,000	補	日本学術振 興会
HMGB1を標的とした癌の骨破壊病変に対する 制御機構の解明	坂本 裕美	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,430,000	補	日本学術振 興会
口腔癌の細胞外小胞を介したシスプラチン耐 性獲得機構の解明	小野 喜章	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,430,000	補	日本学術振 興会
新たな軟骨基質の石灰化制御機構:内軟骨性 骨化におけるAGEsとCCN2の制御連関	村瀬 友里香	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	2,600,000	補	日本学術振 興会
シスプラチン耐性口腔癌に対する銅キレート 剤を用いた新規治療戦略の確立	竜門 省二	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,300,000	補	日本学術振 興会
新規成長因子Midkineが口腔癌骨浸潤に果た す役割と機能の解明	増井 正典	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,690,000	補	日本学術振 興会
口腔癌由来HMGB1に着目した癌性骨痛発生 メカニズムの解明	中村 友哉	口腔外科(口腔顎 顔面外科部門)	1,560,000	補	日本学術振 興会
放射線性う蝕予防の新規アプローチ～歯面塗 布型放射線防護剤の開発～	松崎 秀信	歯科(歯科放射線 科部門)	1,300,000	補	日本学術振 興会
Gumbel法を用いた遠隔で運用可能な新規歯 科的個人識別法の開発	岡田 俊輔	歯科(歯科放射線 科部門)	1,170,000	補	日本学術振 興会
AIを活用した頸部リンパ節転移に対する超音 波検査診断支援システムの開発	竹下 洋平	歯科(歯科放射線 科部門)	390,000	補	日本学術振 興会
味覚酸・CO2センサーの口腔外機能:延髄呼 吸中枢での役割	難波 友里	歯科(歯科放射線 科部門)	1,560,000	補	日本学術振 興会
がん化学療法に伴う歯周組織への影響に関 する検討	丸山 貴之	歯科(予防歯科部 門)	1,300,000	補	日本学術振 興会
酸化ストレス可視化マウスにおける加齢を考慮 した三次喫煙による全身と歯周病への影響	福原 大樹	歯科(予防歯科部 門)	780,000	補	日本学術振 興会
歯周病罹患組織から全身臓器に情報を伝達 するmicroRNAの同定とその制御	森田 学	歯科(予防歯科部 門)	1,170,000	補	日本学術振 興会
口腔機能向上が身体的・精神的フレイルに及 ぼす有効性の検証:ランダム化比較試験	竹内 倫子	歯科(予防歯科部 門)	1,430,000	補	日本学術振 興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
摂食嚥下療法は頭頸部がんサバイバーの復職支援となりうるか？	横井 彩	歯科(予防歯科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
トリプトファンによる睡眠時ブラキニズムへの介入効果の検討	外山 直樹	歯科(予防歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
光誘導RNA導入法を応用した骨再生のための新規ドラッグデリバリーシステムの開発	江國 大輔	歯科(予防歯科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
歯周病菌P. gulaeが保有する病原因子の分子生物学的解析とその多様性の解明	稲葉 裕明	小児歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
歯科領域からの革新的治療法の開発を目指した口腔細菌に起因するIgA腎症の病態解明	仲 周平	小児歯科	1,170,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢の網羅的解析による口腔粘膜障害への臨床アプローチ	平野 慶子	小児歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
口腔バイオフィルム形成に関わる新規ABCトランスポーターの同定と機能解析	後藤 花奈	小児歯科	1,820,000	補	日本学術振興会
S. mutansのシグナル伝達システムにおける分子シャペロンDnaKの機能解析	粕山 衣里 (吉田 衣里)	小児歯科	1,950,000	補	日本学術振興会
歯周病菌P. gulaeによるバイオフィルム形成機序の解明と関連病原因子の同定	吉田 翔	小児歯科	2,340,000	補	日本学術振興会
大量化学療法による口腔細菌の膜輸送体の発現変化と口腔粘膜障害発症メカニズムの解明	小林 優子 (森川 優子)	小児歯科	2,600,000	補	日本学術振興会
口腔細菌叢のメタゲノム解析による非アルコール性脂肪肝炎発症機序解明と新規予防戦略	仲野 道代 (松本 道代)	小児歯科	2,210,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアダイナミクス異常が唾液腺機能に及ぼす影響の検討	樋口 仁	歯科(歯科麻酔科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性チャネルは神経障害性疼痛にどのように関与するか	三宅 沙紀	歯科(歯科麻酔科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
障害者歯科への臨床応用を目的とした経口用プロポフォール封入リポソーム製剤の開発	西岡 由紀子	歯科(歯科麻酔科部門)	3,250,000	補	日本学術振興会
歯周病原菌による分泌小胞を介した新たな細胞障害メカニズムの解明	味野 範子 (塩津 範子)	歯科(総合歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
プラーク内ゲノムDNAと歯周病との関連ーショットガンメタゲノムによる解析ー	江草 正彦	スペシャルニーズ 歯科センター	2,080,000	補	日本学術振興会
術後絶食中のガム咀嚼は、食道がん手術後の予後を改善できるのか？	山中 玲子	医療支援歯科治療部	780,000	補	日本学術振興会
神経支配が腫瘍微小環境の形成と腫瘍の進展に及ぼす影響の解明	吉田 沙織	歯科総合診断室	1,300,000	補	日本学術振興会
ハニカムTCPを用いた細胞外微小環境制御による新規歯牙再生法の確立	稲田 靖則	歯科総合診断室	1,430,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
口蓋形態の個体差を利用した新規個人識別法の開発	柳 文修	歯科総合診断室	1,170,000	補	日本学術振興会
抗がん剤誘発精神機能障害発現機序に基づく釣藤鈎含有漢方薬の治療機序の解明	岩田 直大	薬剤部	470,000	補	日本学術振興会
変異PC12細胞を用いた抗がん剤による報酬機能障害における細胞機能変容の解明	江角 悟	薬剤部	470,000	補	日本学術振興会
副腎の時計遺伝子に着目したDHEA投与による不眠改善効果の検討	白水 翔也	薬剤部	470,000	補	日本学術振興会
抗HER2薬耐性細胞株に対するトラスツズマブデルクスデカンの有効性の検討	武田 達明	薬剤部	470,000	補	日本学術振興会
腭神経内分泌腫瘍に対する超音波内視鏡ガイド下エタノール注入療法の開発:多施設共同前向き介入研究	加藤 博也	光学医療診療部	1,000,000	補	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
マルチオミクス解析による移植後免疫再構築の解明とGVHDを予測する分子遺伝学的バイオマーカーの開発研究	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	9,100,000	委	日本医療研究開発機構
マルチオミクス解析による初発ならびに再発DLBCLの治療特異的バイオマーカーの開発研究	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	14,450,000	委	日本医療研究開発機構
COPDの病態解明・新規治療開発のための空間解析を含むマルチオミクスデータベース構築	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	83,330,000	委	日本医療研究開発機構
難治がんに対するp53がん抑制遺伝子搭載武装化アデノウイルス製剤の実用化のための非臨床試験	藤原 俊義	消化管外科	95,095,000	委	日本医療研究開発機構
遺伝子治療製品「Ad-SGE-REIC」の再発悪性神経膠腫対象第I/IIa 相試験	伊達 勲	脳神経外科	10,627,891	委	日本医療研究開発機構
時空間単細胞解析によるTumor ecosystemを標的とした脳腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果増強	大谷 理浩	脳神経外科	1,000,000	補	公益財団法人安田記念医学財団
腸脳相関による骨髄系細胞のリプログラミングに着目した膠芽腫に対する新規治療標的の解明	大谷 理浩	脳神経外科	1,000,000	補	公益財団法人ヤクルト・バイオサイエンス研究財団
膠芽腫に対する遺伝子治療臨床検体を用いた網羅的空間発現解析による抗腫瘍免疫獲得機序の解明	大谷 理浩	脳神経外科	1,000,000	補	公益財団法人がん研究振興財団
針穿刺ロボットを用いたがんに対する低侵襲治療「CT透視ガイド下アブレーション」の検証的医師主導治験	平木 隆夫	放射線科	34,450,000	委	日本医療研究開発機構
がん化学療法に伴う口腔粘膜炎の疼痛緩和・発症制御を目指す新規口腔粘膜保護材の開発	大森 一弘	歯科歯周科部門	28,084,598	委	日本医療研究開発機構
岡山県医療介護総合確保基金事業「死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最後まで守る多職種連携口腔栄養サービスの推進事業」	窪木 拓男	歯科口腔インプラント科部門	2,335,349	委	岡山県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
大腸菌発現系由来rhBMP-2含有 β -TCP製人工骨を用いた顎骨再生療法	窪木 拓男	歯科口腔インプラント科部門	87,655,100	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 令和3年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

計283件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Otsuka Y, Hagiya H, Nakano Y, et al.	総合内科・総合診療科	A patient with human coronavirus NL63 falsely diagnosed with COVID-19; Lesson learned for the importance of definitive diagnosis.	J Infect Chemother. 2021 Jul;27(7):1126-1128	Case report
2	Yamamoto K, Oka K, Hasegawa K, et al.	総合内科・総合診療科	Sternoclavicular Joint Hypertrophy Involved in Polymyalgia Rheumatica.	Intern Med. 2021 Sep;60(18):3057	Case report
3	Yamamoto K, Oka K, Son R, et al.	総合内科・総合診療科	Acute pancreatitis without abdominal pain induced by administration of nivolumab and ipilimumab.	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 Jul;5(2):425-430	Case report
4	Otsuka Y, Nakano Y, Tokumasu K, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical Utility of the Ratio of Urinary Free Cortisol to Aldosterone as an Index for Inflammatory and Metabolic Dysregulation.	Ann Clin Lab Sci. 2021 May;51(3):352-358	Original Article
5	Yamamoto K, Oka K, Sakae H, et al.	総合内科・総合診療科	Acute Pancreatitis Related to COVID-19 Infection.	Intern Med. 2021 Jul;60(13):2159-2160	Case report
6	Yamamoto K, Oka K, Honda H, et al.	総合内科・総合診療科	Pseudoacromegaly with acromegalic features in radiography.	Clin Case Rep. 2021 May;9(5):e04095	Case report
7	Takase R, Nakano Y, Morizane S, et al.	総合内科・総合診療科	Hypothalamic Mass Detected in Langerhans Cell Histiocytosis.	Intern Med . 2021 Jun;60(11):1795	Case report
8	Yamamoto K, Oka K, Hasegawa K, et al.	総合内科・総合診療科	Orbital mass and hairy kidney as characteristics of Erdheim-Chester disease.	Clin Case Rep. 2021 Jun;9(6):e04333	Case report
9	Yamamoto K, Tokumasu K, Oka K, et al.	総合内科・総合診療科	Isolated adrenocorticotropin deficiency induced by pembrolizumab for hypopharyngeal cancer: A case report.	Clin Case Rep. 2021 Jun;9(6):e04305	Case report
10	Yamamoto K, Oka K, Hasegawa K, et al.	総合内科・総合診療科	Adult Hypogonadism Due to Testicular Adrenal Rest Tumors.	Intern Med. 2021 Dec;60(23):3839-3840	Case report
11	Hagiya H, Fujita K, Kamiyama S, et al.	総合内科・総合診療科	Deployment of Infectious Disease Experts and Prevalence of Antimicrobial Resistance in Okayama: A Call for Training of Specialists.	Cureus. 2021 Jul;13(7):e16643	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Yamamoto K, Hanayama Y, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Pseudo-Cushing's state in a patient with non-functioning pituitary adenoma.	BMJ Case Rep. 2021 Jul;14(7):e244438	Case report
13	Yamamoto Y, Otsuka Y, Katsuyama T, et al.	総合内科・総合診療科	An Elderly Male with Primary Sjögren's Syndrome Presenting Pleuritis as the Initial Manifestation.	Acta Med Okayama. 2021 Aug;75(4):539-542	Case report
14	Yamamoto K, Hagiya H, Maki J, et al.	総合内科・総合診療科	High-Dose Corticosteroids for a Pregnant Woman Critically Ill With Coronavirus Disease 2019.	Cureus. 2021 Aug;13(8):e17398	Case report
15	Hagiya H, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Ivermectin for Coronavirus Disease 2019: Yet to Be Well Evaluated Before Clinical Use.	Clin Ther. 2021 Sep;43(9):1622-1623	Original Article
16	Yamamoto K , Nakamura K, Hagiya H, et al.	総合内科・総合診療科	Candidemia in COVID-19 treated with corticosteroids and tocilizumab.	Clin Case Rep . 2021 Sep;9(9):e04858	Case report
17	Yamamoto K, Honda H, Ota I, et al.	総合内科・総合診療科	Triad signs shown by bone scintigraphy in FGF23-related osteomalacia.	QJM. 2022 Jan;114(12):887-888	Case report
18	Takase R, Hagiya H, Honda H, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical Manifestations of Patients with Influenza Differ by Age : A Prospective, Multi-centered Study in the Setouchi Marine Area.	Acta Med Okayama. 2021 Oct;75(5):567-574	Original Article
19	Yamamoto K, Omura D, Yamane M, et al.	総合内科・総合診療科	Recurrence of Hypoglycemic Coma in a Patient with Anorexia Nervosa.	Acta Med Okayama. 2021 Oct;75(5):631-636	Case report
20	Yamamoto K, Hasegawa K, Oka K, et al.	総合内科・総合診療科	Celiac artery dissection in polycystic kidney disease.	Clin Case Rep. 2021 Oct;9(10):e04922	Case report
21	Otsuka Y, Tokumasu K, Nakano Y, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical Characteristics of Japanese Patients Who Visited a COVID-19 Aftercare Clinic for Post-Acute Sequelae of COVID-19/Long COVID.	Cureus. 2021 Oct;13(10):e18568	Original Article
22	Yamamoto K, Honda H, Hagiya H, et al.	総合内科・総合診療科	Calcified spleen associated with Pneumocystis jirovecii infection.	QJM. 2022 Jan;114(12):895	Case report
23	Honda H, Hagiya H, Higashionna T, et al.	総合内科・総合診療科	Impact of the day of the week on the discontinuation of broad-spectrum antibiotic prescriptions; a multi-centered observational study.	Sci Rep. 2021 Oct;11(1):20784	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
24	Tokumasu K, Ochi K, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Idiopathic combined adrenocorticotropin and growth hormone deficiency mimicking chronic fatigue syndrome.	BMJ Case Rep. 2021 Oct;14(10):e244861	Case report
25	Ishida T, Hagiya H, Honda H, et al.	総合内科・総合診療科	Antimicrobial prescription practices for outpatients with acute respiratory tract infections: A retrospective, multicenter, medical record-based study.	PLoS One. 2021 Nov;16(11):e0259633	Original Article
26	Otsuka Y, Nagaoka H, Nakano Y, et al.	総合内科・総合診療科	Subcutaneous edema as rare complication of abdominal paracentesis.	Clin Case Rep. 2021 Nov;9(11):e05116	Case report
27	Hagiya H, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Therapeutic Drug Monitoring for Aminoglycosides: Not Yet Readily Available in Japanese University Hospitals.	JMA J. 2022 Jan;5(1):127-129	Original Article
28	Yamamoto K, Honda H, Hagiya H, et al.	総合内科・総合診療科	Bull's Head Sign.	JMA J. 2022 Jan;5(1):130-131	Case report
29	Matsumoto K, Kato H, Kitano M, et al.	光学医療診療部	Study protocol for endoscopic ultrasonography-guided ethanol injection therapy for patients with pancreatic neuroendocrine neoplasm: a multicentre prospective study.	BMJ Open. 2021 Jul;11(7):e046505	Others
30	Matsumoto K, Kato H, Okada H.	光学医療診療部	Usefulness of contrast-enhanced endoscopic ultrasonography for the treatment of ethanol reinjection in patient with small pancreatic neuroendocrine neoplasm.	Dig Endosc. 2022 Jan;34(1):e5-e6	Case report
31	Fujiwara H, Seike K, Brooks MD, et al.	血液・腫瘍内科	Mitochondrial complex II in intestinal epithelial cells regulates T cell-mediated immunopathology.	Nat Immunol. 2021 Nov;22(11):1440-1451	Original Article
32	Fujii K, Fujii N, Kondo T, et al.	検査部	Effectiveness of supplemental oral calcium drink in preventing citrate-related adverse effects in peripheral blood progenitor cell collection.	Transfus Apher Sci. 2021 Aug;60(4):103147	Original Article
33	Kondo T, Ikegawa S, Fukumi T, et al.	血液・腫瘍内科	Pretransplant Short-Term Exposure of Donor Graft Cells to ITK Selective Inhibitor Ameliorates Acute Graft-versus-Host Disease by Inhibiting Effector T Cell Differentiation while Sparing Regulatory T Cells.	Immunohorizons. 2021 Jun;5(6):424-437	Original Article
34	Fujiwara H.	血液・腫瘍内科	Crosstalk Between Intestinal Microbiota Derived Metabolites and Tissues in Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation.	Front Immunol. 2021 Aug;12:703298	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
35	Makimoto G, Kawakado K, Nakanishi M, et al.	腫瘍センター	Heerfordt's Syndrome Associated with Trigeminal Nerve Palsy and Reversed Halo Sign.	Intern Med. 2021 Jun;60(11):1747-1752	Case report
36	Ninomiya K, Yokoyama T, Hotta K, et al.	ゲノム医療総合推 進センター	A randomized trial of sodium alginate prevention of esophagitis in LA-NSCLC receiving chemoradiotherapy: OLCSG1401.	Support Care Cancer. 2021 Sep;29(9):5237- 5244	Original Article
37	Hotta K, Nishio M, Saito H, et al.	新医療研究開発セ ンター	First-line durvalumab plus platinum-etoposide in extensive- stage small-cell lung cancer: CASPIAN Japan subgroup analysis.	Int J Clin Oncol. 2021 Jun;26(6):1073- 1082	Original Article
38	Makimoto G, Ninomiya K, Kubo T, et al.	腫瘍センター	A novel osimertinib-resistant human lung adenocarcinoma cell line harbouring mutant EGFR and activated IGF1R.	Jpn J Clin Oncol. 2021 May;51(6):956- 965	Case report
39	Higo H, Ohashi K, Tomida S, et al.	呼吸器・アレルギー内 科	Identification of targetable kinases in idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Res. 2022 Feb;23(1):20	Original Article
40	Nakamura K, Akagi S, Ejiri K, et al.	循環器内科	Inhibitory effects of RAGE- aptamer on development of monocrotaline-induced pulmonary arterial hypertension in rats.	J Cardiol. 2021 Jul;78(1):12-16	Original Article
41	Miyoshi T, Ito H.	循環器内科	Arterial stiffness in health and disease: The role of cardio-ankle vascular index.	J Cardiol. 2021 Dec;78(6):493-501	Original Article
42	Takaya Y, Akagi T, Sakamoto I, et al.	超音波診断セン ター	Efficacy of treat-and-repair strategy for atrial septal defect with pulmonary arterial hypertension.	Heart. 2022 Mar;108(5):382-387	Original Article
43	Nishii N, Nishimoto T, Mizuno T, et al.	循環器内科	Prognosis of patients with severe left ventricular dysfunction after transvenous lead extraction and the need for additional hemodynamic support in the perioperative period.	Heart Rhythm. 2021 Jun;18(6):962-969	Original Article
44	Takaya Y, Akagi T, Nakagawa K, et al.	超音波診断セン ター	Feasibility of transcatheter closure for absent aortic rim in patients with atrial septal defect.	Catheter Cardiovasc Interv. 2021 Apr;97(5):859-864	Original Article
45	Tadokoro K, Yamashita T, Sato J, et al.	脳神経内科	Chronic Beneficial Effect of Makeup Therapy on Cognitive Function of Dementia and Facial Appearance Analyzed by Artificial Intelligence Software.	J Alzheimers Dis. 2022 Feb;85(3):1189- 1194	Original Article
46	Tadokoro K, Yamashita T, Kimura S, et al.	脳神経内科	Retinal Amyloid Imaging for Screening Alzheimer's Disease.	J Alzheimers Dis. 2021 Sep;83(2):927- 934	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
47	Tadokoro K, Yamashita T, Kawano S, et al.	脳神経内科	Immediate Beneficial Effect of Makeup Therapy on Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia and Facial Appearance Analyzed by Artificial Intelligence Software.	J Alzheimers Dis. 2021 Aug;83(1):57-63	Original Article
48	Tadokoro K, Yamashita T, Fukui Y, et al.	脳神経内科	Early detection of cognitive decline in mild cognitive impairment and Alzheimer's disease with a novel eye tracking test.	J Neurol Sci. 2021 Aug;427:11752	Original Article
49	Tadokoro K, Yamashita T, Shang J, et al.	脳神経内科	Switching the Proteolytic System from the Ubiquitin-Proteasome System to Autophagy in the Spinal Cord of an Amyotrophic Lateral Sclerosis Mouse Model.	Neuroscience. 2021 Jul;466:47-57	Original Article
50	Yamashita T, Kushida Y, Abe K, et al.	脳神経内科	Non-Tumorigenic Pluripotent Reparative Muse Cells Provide a New Therapeutic Approach for Neurologic Diseases.	Cells. 2021 Apr;10(4):961	Review
51	Yamashita T, Hatakeyama T, Sato K, et al.	脳神経内科	Hypoxic stress visualized in the cervical spinal cord of ALS patients.	Neurol Res. 2021 Jun;43(6):429-433	Original Article
52	Nomura E, Kawahara Y, Omote Y, et al.	脳神経内科	A case of a heterozygous ABCC6 mutation showing recurrent ischemic strokes and intracranial hemorrhages.	Neurology and Clinical Neuroscience. 2022 Mar;10(2):98-101	Case report
53	Kuroda S, Kikuchi S, Kakiuchi Y, et al.	消化管外科	Efficacy and safety of short-term (3 days) enoxaparin in preventing venous thromboembolism after gastric cancer surgery: A single- center, prospective cohort study.	Int J Surg. 2021 May;89:10594	Original Article
54	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療セン ター	Robotic Radical Antegrade Modular Pancreatosplenectomy Using the Supracolic Anterior Superior Mesenteric Artery Approach.	J Gastrointest Surg. 2021 Nov;25(11):3015- 3018	Original Article
55	Kakiuchi Y, Kuroda S, Kanaya N, et al.	低侵襲治療セン ター	Local oncolytic adenovirotherapy produces an abscopal effect via tumor-derived extracellular vesicles.	Mol Ther. 2021 Oct;29(10):2920-2930	Original Article
56	Umeda Y, Mitsuhashi T, Kojima T, et al.	肝・胆・膵外科	Impact of lymph node dissection on clinical outcomes of intrahepatic cholangiocarcinoma: Inverse probability of treatment weighting with survival analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Feb;29(2):217-229	Original Article
57	Umeda H, Kikuchi S, Kuroda S, et al.	消化管外科	Long-term survival without recurrence after surgery for gastric yolk sac tumor-like carcinoma: a case report.	Surg Case Rep. 2021 May;7(1):111	Case report
58	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療セン ター	Gastroenteropancreatic neuroendocrine tumor of the accessory papilla of the duodenum: a case report.	Surg Case Rep. 2021 Jun;7(1):156	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
59	Takagi K, Kuisse T, Yoshida K, et al.	臓器移植医療セン ター	Adult Bochdalek hernia following living donor left hepatectomy repaired by thoracoscopy-assisted surgery: A case report.	Asian J Endosc Surg. 2022 Jan;15(1):220- 224	Case report
60	Yoshida R, Yagi T, Yasui K, et al.	肝・胆・膵外科	Usefulness of Middle Colic Artery Transposition Technique for Hepatic Arterial Reconstruction in Conversion Surgery for an Initially Unresectable, Locally Advanced Pancreatic Cancer.	Acta Med Okayama. 2021 Aug;75(4):543- 548	Case report
61	Takagi K, Yagi T, Fujiwara T.	臓器移植医療セン ター	Splenic and Peritoneal Metastases with Para-aortic and Virchow Lymph Node Metastases: Late Recurrence of Ovarian Cancer 30 Years after Initial Treatment.	JMA J. 2021 Oct;4(4):428-431	Case report
62	Takagi K, Yoshida R, Umeda Y, et al.	臓器移植医療セン ター	Robotic distal pancreatectomy using a medial approach for a bulky mucinous cystic neoplasm of the pancreas (with video).	Asian J Surg. 2022 Jan;45(1):542-543	Case report
63	Takagi K, Kanehira N, Matsumoto K.	臓器移植医療セン ター	A Rare Complication of Barium Swallow Test.	Gastroenterology. 2022 Feb;162(2):401- 403	Case report
64	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療セン ター	Robotic spleen-preserving distal pancreatectomy using indocyanine green fluorescence imaging (with video).	Asian J Surg. 2022 Jan;45(1):596-597	Case report
65	Nagai Y, Takagi K, Kuisse T, et al.	肝・胆・膵外科	Multiple Hepatolithiasis Following Hepaticojejunostomy Successfully Treated with Left Hemihepatectomy and Double Hepaticojejunostomy Reconstruction.	Acta Med Okayama. 2021 Dec;75(6):735- 739	Case report
66	Takagi K, Kuisse T, Umeda Y, et al.	臓器移植医療セン ター	Left Hemihepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Following Esophagectomy with Retrosternal Gastric Tube Reconstruction for Esophageal Cancer.	Acta Med Okayama. 2021 Dec;75(6):755- 758	Case report
67	Takagi K, Koerkamp BG.	臓器移植医療セン ター	Robotic Total Pancreatectomy: A Narrative Review.	In Vivo. 2021 Jul- Aug;35(4):1907-1911	Review
68	Takagi K, Nagai Y, Umeda Y, et al.	臓器移植医療セン ター	Prognostic Value of the Regional Lymph Node Station in Pancreatoduodenectomy for Ampullary Carcinoma.	In Vivo. 2022 Mar- Apr;36(2):973-978	Original Article
69	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療セン ター	A Systematic Review of Minimally Invasive Versus Open Radical Antegrade Modular Pancreatosplenectomy for Pancreatic Cancer.	Anticancer Res. 2022 Feb;42(2):653-660	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
70	Umeda Y, Nagasaka T, Takagi K, et al.	肝・胆・膵外科	Technique of vessel-skeletonized parenchyma-sparing hepatectomy for the oncological treatment of bilobar colorectal liver metastases.	Langenbecks Arch Surg. 2022 Mar;407(2):685-697	Original Article
71	Okazaki M, Suzawa K, Shien K, et al.	呼吸器外科	Robot-assisted thoracoscopic lobectomy for severe incomplete interlober fissure.	J Surg Case Rep. 2021 Aug;2021(8):rjab336	Original Article
72	Okazaki M, Takigawa T, Suzawa K, et al.	呼吸器外科	Robot-assisted intrathoracic procedure for dumbbell tumour in the prone position.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 Oct;33(4):643-645	Case report
73	Tanaka S, Jose Luis Campo-Cañaver al de la Cruz, Mariana Gil Barturen, et al.	臓器移植医療センター	Post-transplant outcomes of standard and extended criteria donation after circulatory death donor lungs categorized by donation after brain death lung criteria.	Eur J Cardiothorac Surg. 2021 Sep;60(3):590-597	Original Article
74	Sekito T, Takamoto A, Kobayashi Y, et al.	泌尿器科	A Case of Metastatic Fumarate Hydratase-Deficient-like Renal Cell Carcinoma Successfully Managed by Ipilimumab plus Nivolumab.	Acta Med Okayama. 2021 Jun;75(3):397-402	Case report
75	Sekito T, Sadahira T.	泌尿器科	Editorial Comment to Evaluation of image-based prognostic parameters of post-prostatectomy urinary incontinence: A literature review.	Int J Urol. 2021 Sep;28(9):897-898	Review
76	Yoshinaga K, Araki M, Wada K, et al.	泌尿器科	Successful deceased donor kidney transplantation to a recipient with a history of COVID-19 treatment.	J Infect Chemother. 2021 Jul;27(7):1097-1101	Case report
77	Katayama S, Mori K, Benjamin Pradere, et al.	泌尿器科	Intracorporeal versus extracorporeal urinary diversion in robot-assisted radical cystectomy: a systematic review and meta-analysis.	Int J Clin Oncol. 2021 Sep;26(9):1587-1599	Review
78	Katayama S, Mori K, Benjamin Pradere, et al.	泌尿器科	Prognostic value of the systemic immune-inflammation index in non-muscle invasive bladder cancer.	World J Urol. 2021 Dec;39(12):4355-4361	Original Article
79	Sadahira T, Wada K, Araki M, et al.	泌尿器科	Efficacy of Lactobacillus vaginal suppositories for the prevention of recurrent cystitis: A phase II clinical trial.	Int J Urol. 2021 Oct;28(10):1026-1031.	Original Article
80	Sekito T, Sadahira T, Sugihara M, et al.	泌尿器科	Management of Groin Pain Using an Iliohypogastric Nerve Block in a Patient with Inguinal Hernia due to Persistent Müllerian Duct Syndrome.	Case Rep Urol. 2021 Aug;2021:7577632	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Iwata T, Sadahira T, Maruyama Y, et al.	泌尿器科	Clinical Efficacy and Safety of Sitaflaxacin 200 mg Once Daily for Refractory Genitourinary Tract Infections.	Acta Med Okayama. 2021 Dec;75(6):763-766	Others
82	Iwata T, Maruyama Y, Kawada T, et al.	泌尿器科	Testosterone Recovery after Neoadjuvant Gonadotropin-Releasing Hormone Antagonist versus Agonist on Permanent Iodine-125 Seed Brachytherapy in Prostate Cancer Patients: A Propensity Score Analysis.	Acta Med Okayama. 2021 Dec;75(6):705-711	Original Article
83	Maruyama Y, Araki M, Kidokoro K, et al.	泌尿器科	Evaluation of Neutrophil Dynamics Change by Protective Effect of Tadalafil After Renal Ischemia/Reperfusion Using In Vivo Real-time Imaging.	Transplantation. 2022 Feb;106(2):280-288	Original Article
84	Sekito T, Sadahira T, Watanabe T, et al.	泌尿器科	Medical uses for silver nitrate in the urinary tract.	World Academy of Sciences Journal. 2022 Jan-Feb (オンライン)	Review
85	Hirota M, Suezawa T, Kobayashi Y, et al.	心臓血管外科	Endocardial Hemangioma of the Right Ventricle: Complete Excision With Right Ventricular Restoration.	Ann Thorac Surg. 2021 Jun;111(6):e411-e413	Case report
86	Shinaoka A, Nakahara R, Saeki M.	形成外科	The use of 33 MHz ultra-high-frequency ultrasonography for the evaluation of sweat glands in the axilla with osmidrosis.	PLoS One. 2021 May;16(5):e0251600	Original Article
87	Shinaoka A, Kamiyama K, Yamada K, et al.	形成外科	A new severity classification of lower limb secondary lymphedema based on lymphatic pathway defects in an indocyanine green fluorescent lymphography study.	Sci Rep. 2022 Jan;12(1):309	Original Article
88	Matsumoto H, Ota T, Takeda S, et al.	形成外科	Changes in Quality of Life After Secondary Closure of Palatal Defects: Prosthetic Obturation Versus Surgical Reconstruction.	J Craniofac Surg. 2022 Mar-Apr;33(2):562-565	Original Article
89	Matsumoto H, Kimata Y.	形成外科	Intra-abdominal/Intraperitoneal Vessels.	Recipient Vessels in Reconstructive Microsurgery. 2021 Sep (オンライン)	Original Article
90	Matsumoto H, Ota T, Komagoe S, et al.	形成外科	Resection and immediate reconstruction of two pediatric intraosseous capillary mandibular malformations.	European Journal of Plastic Surgery. 2022 Jan(オンライン)	Case report
91	Yokoyama E, Yamasaki O, Kubo T, et al.	皮膚科	A case of bullous pemphigoid after a long-term administration of anti-PD-1 antibodies in a patient with non-small-cell lung cancer.	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2021 Dec;4(6):170-172	Original Article
92	Kawakami Y, Aoyama Y, Tada K, et al.	皮膚科	Granular C3 dermatosis: Report of a case resembling dermatophytid in association with tinea pedis.	J Dermatol. 2021 Jul;48(7):e320-e321	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
93	Tachibana K, Ohe S, Tanaka M, et al.	皮膚科	Tumor lysis syndrome induced by BRAF/MEK double blockade in a patient with metastatic melanoma: A first case report.	J Dermatol. 2021 Jul;48(7):e324-e326	Case report
94	Miyake T, Natsuga K, Umayahara T, et al.	皮膚科	Case of inherited epidermolysis bullosa simplex with KLHL24 gene mutation in Japan.	J Dermatol. 2022 Jan;49(1):e24-e25	Case report
95	Tachibana K, Tang N, Urakami H, et al.	皮膚科	Multifaceted Analysis of IL-23A-and/or EBI3-Including Cytokines Produced by Psoriatic Keratinocytes.	Int J Mol Sci. 2021 Nov;22(23):12659	Original Article
96	Matoba R, Morizane Y.	眼科	Surgical Treatment of Epiretinal Membrane.	Acta Med Okayama. 2021 Aug;75(4):403-413	Review
97	Morita T, Shiode Y, Kimura S, et al.	眼科	Sublingual Gland Carcinoma Revealed by Choroidal Metastasis.	Acta Med Okayama. 2021 Dec;75(6):741-744	Case report
98	Kanzaki S, Kanzaki Y, Doi S, et al.	眼科	En Face Image-Based Analysis of Epiretinal Membrane Formation after Surgery for Idiopathic Epiretinal Membrane.	Ophthalmol Retina. 2021 Aug;5(8):815-823	Original Article
99	Kimura S, Morizane Y, Toshima S, et al.	眼科	Cytotoxic effects of alteplase, a recombinant tissue plasminogen activator, on human retinal pigment epithelial cells.	Jpn J Ophthalmol. 2021 Sep;65(5):731-739	Original Article
100	Matoba R, Kanzaki Y, Doi S, et al.	眼科	Assessment of epiretinal membrane formation using en face optical coherence tomography after rhegmatogenous retinal detachment repair.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2021 Sep;259(9):2503-2512	Original Article
101	Kono R, Hamasaki I, Kishimoto F, et al.	眼科	Clinical Parameters Reflecting Globe/orbit Volume Imbalances in Japanese Acquired Esotropia Patients with High Myopia but without Abduction Limitations.	Acta Med Okayama. 2021 Aug;75(4):447-453	Original Article
102	Fujiwara M, Kimura S, Morizane M, et al.	眼科	Embedding of Epiretinal Proliferation for a Secondary Lamellar Macular Hole 12 Years after Rhegmatogenous Retinal Detachment Repair.	Acta Med Okayama. 2021 Jun;75(3):391-395	Case report
103	Abe-Fujisawa I, Maeda Y, Takao S, et al.	耳鼻咽喉科	Subjective Evaluation of Balance by the Dizziness Handicap Inventory Does Not Predict Fall Risk in Older Adults Visiting Otolaryngology Clinics.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 2021 Sep;130(9):990-995	Original Article
104	Uraguchi K, Maeda Y, Takahara J, et al.	耳鼻咽喉科	Upregulation of a nuclear factor-kappa B-interacting immune gene network in mice cochleae with age-related hearing loss.	PLoS One. 2021 Oct;16(10):e0258977	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
105	Maeda Y, Kariya S, Uraguchi K, et al.	耳鼻咽喉科	Immediate changes in transcription factors and synaptic transmission in the cochlea following acoustic trauma: A gene transcriptome study.	Neurosci Res. 2021 Apr;165:6-13	Original Article
106	Kataoka Y, Maeda Y, Sugaya A, et al.	耳鼻咽喉科	Effects of Protective Measures against COVID-19 on Auditory Communication for People with Hearing Loss.	Acta Med Okayama. 2021 Aug;75(4):511-516	Original Article
107	Akisada N, Monden N, Kishino T, et al.	耳鼻咽喉科	Otorhinolaryngologists/head and neck surgeons' knowledge, attitudes, and practices regarding fertility preservation in young cancer patients treated with chemotherapy: an anonymous questionnaire survey.	Int J Clin Oncol. 2021 Jul;26(7):1196-1202	Original Article
108	Makihara S, Okano M, Miyamoto S, et al.	耳鼻咽喉科	Underwater posterior nasal neurectomy compared to resection of peripheral branches of posterior nerve in severe allergic rhinitis.	Acta Otolaryngol. 2021 Aug;141(8):780-785	Original Article
109	Kariya S, Shimizu Y, Hanai N, et al.	耳鼻咽喉科	Effectiveness of nivolumab affected by prior cetuximab use and neck dissection in Japanese patients with recurrent or metastatic head and neck cancer: results from a retrospective observational study in a real-world setting.	Int J Clin Oncol. 2021 Jun;26(6):1049-1056	Original Article
110	Uraguchi K, Makihara S, Kariya S.	耳鼻咽喉科	Dysphagia in a Patient with Asymmetric Elevation of the Hyoid Bone.	Dysphagia. 2021 Aug;36(4):761-763	Case report
111	Uraguchi K, Makihara S, Kozakura K.	耳鼻咽喉科	Total en bloc resection for sinonasal squamous cell carcinoma by endoscopic endonasal surgery with Draf I Ib procedure with video.	Eur Ann Otorhinolaryngol Head Neck Dis. 2021 Nov;138 Suppl 4:119-121	Case report
112	Uraguchi K, Makihara S, Tsugita M, et al.	耳鼻咽喉科	Dermatomyositis With Carcinoma of Unknown Primary Disease in the Head and Neck Diagnosed by Muscle Biopsy During Neck Dissection.	JAMA Otolaryngol Head Neck Surg. 2022 Feb;148(2):195-196	Case report
113	Hishikawa T, Murai S, Hiramatsu M, et al.	脳神経外科	An Evaluation of the Safety and Feasibility of Adenosine-assisted Clipping Surgery for Unruptured Cerebral Aneurysms: Study Protocol.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2021 Jul;61(7):393-396	Original Article
114	Yabuno S, Kawauchi S, Umakoshi M, et al.	脳神経外科	Spinal Cord Diffuse Midline Glioma, H3K27M- mutant Effectively Treated with Bevacizumab: A Report of Two Cases.	NMC Case Rep J. 2021 Aug;8(1):505-511	Case report
115	Otani Y, Sur HP, Rachaiiah G, et al.	脳神経外科	Inhibiting protein phosphatase 2A increases the antitumor effect of protein arginine methyltransferase 5 inhibition in models of glioblastoma.	Neuro Oncol. 2021 Sep;23(9):1481-1493	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
116	Haruma J, Sugiu K, Hoshika M, et al.	脳神経外科	A New Method of Intracranial Aneurysm Modeling for Stereolithography Apparatus 3D Printer: The "Wall-Carving Technique" Using Digital Imaging and Communications in Medicine Data.	World Neurosurg. 2022 Mar;159:e113-e119	Original Article
117	Kanazawa T, Shimizu K, Iwasaki T, et al.	小児麻酔科	Perioperative Milrinone Infusion Improves One-Year Survival After the Norwood-Sano Procedure.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2021 Jul;35(7):2073-207	Original Article
118	Kuroda K, Ishii K, Mihara Y, et al.	麻酔科蘇生科	Histidine-rich glycoprotein as a prognostic biomarker for sepsis.	Sci Rep. 2021 May 13;11(1):10223	Original Article
119	Morimatsu H and A. E. W. G. C. o. t. J. S. o. Anesthesiol ogists.	麻酔科蘇生科	Incidence of accidental events during anesthesia from 2012 to 2016: survey on anesthesia-related events by the Japanese Society of Anesthesiologists.	J Anesth. 2021 Apr;35(2):206-212	Others
120	Kimura S, Butt W.	医療情報部	Core-Peripheral Temperature Gradient and Skin Temperature as Predictors of Major Adverse Events Among Postoperative Pediatric Cardiac Patients.	Cardiothorac Vasc Anesth. 2022 Mar;36(3):690-698	Original Article
121	Kimura Y, Okahara S, Abo K, et al.	麻酔科蘇生科	Infective Endocarditis Is a Risk Factor for Heparin Resistance in Adult Cardiovascular Surgical Procedures: A Retrospective Study.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2021 Dec;35(12):3568-3573	Original Article
122	Okahara S, Levvey B, McDonald M, et al.	集中治療部	An Audit of Lung Donor Pool: Optimal Current Donation Strategies and the Potential of Novel Time-Extended Donation After Circulatory Death Donation.	Heart Lung Circ. 2022 Feb;31(2):285-291	Original Article
123	Okahara S, Subramaniam A, Darvall JN, et al.	集中治療部	The Relationship between Frailty and Mechanical Ventilation: A Population-based Cohort Study.	Ann Am Thorac Soc. 2022 Feb;19(2):264-271	Original Article
124	Shimizu T, Kanazawa T, Sakura T, et al.	集中治療部	Intact survival from severe cardiogenic shock caused by the first attack of atrial tachycardia treated with extracorporeal membrane oxygenation and surgical left atrium appendage resection: a case report.	JA Clin Rep. 2021 Nov;7(1):81	Case report
125	Miyahara H, Hasegawa K, Yashiro M, et al.	小児科	Thioredoxin interacting protein protects mice from fasting induced liver steatosis by activating ER stress and its downstream signaling pathways.	Sci Rep. 2022 Mar;12(1):4819	Original Article
126	Tsuge M, Ikeda M, Kondo Y, et al.	小児科	Severe pediatric asthma with a poor response to omalizumab: a report of three cases and three-dimensional bronchial wall analysis.	J Int Med Res. 2022 Jan;50(1):3000605211070492	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
127	Hasegawa K, Tanaka H, Futagawa N, et al.	小児科	A novel pathogenic variant p.Asp797Val in IFIH1 in a Japanese boy with overlapping Singleton-Merten syndrome and Aicardi-Goutières syndrome.	Am J Med Genet A. 2022 Jan;188(1):249-252	Case report
128	Morimoto D, Washio Y, Hatayama K, et al.	周産母子センター	Head circumference in infants with nonopiate-induced neonatal abstinence syndrome.	CNS Spectr. 2021 Oct;26(5):509-512	Original Article
129	Baba K, Suda K, Takamuro M, et al.	IVRセンター	Static balloon atrial septostomy in Japan in shortage of standard balloon septostomy catheter.	J Cardiol. 2021 Sep;78(3):219-223	Original Article
130	Tsukahara H, Higashionna T, Tsuge M, et al.	小児科	COVID-19 in Okayama Prefecture: Looking back and looking forward.	Glob Health Med. 2021 Apr;3(2):102-10	Review
131	Tsuge M, Ikeda M, Matsumoto N, et al.	小児科	Current Insights into Atopic March.	Children (Basel). 2021 Nov;8(11):1067	Review
132	Kobayashi K, Shibata T, Tsuchiya H, et al.	小児神経科	Exclusion of the Possibility of "False Ripples" From Ripple Band High-Frequency Oscillations Recorded From Scalp Electroencephalogram in Children With Epilepsy.	Front Hum Neurosci. 2021 Jun;15:696882.	Original Article
133	Kobayashi K, Oka M, Shibata T, et al.	小児神経科	A study on the relationship between non-epileptic fast (40 - 200 Hz) oscillations in scalp EEG and development in children.	Brain Dev. 2021 Oct;43(9):904-911	Original Article
134	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線科	CT-guided biopsy of lung nodules with pleural contact: Comparison of two puncture routes.	Diagn Interv Imaging. 2021 Sep;102:539-544	Original Article
135	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線科	Contrast examination of central venous access port implanted through internal jugular vein for evaluation of suspected complications.	Jpn J Radiol. 2021 Nov;39(11):1103-111	Original Article
136	Munetomo K, Matsui Y, Iguchi T, et al.	放射線科	Catecholamine Crisis Due to Cryoinjury of the Adrenal Gland during Renal Cryoablation.	J Vasc Interv Radiol. 2022 Mar;33(3):350-352	Letter
137	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線科	In Vivo Microwave Ablation of Normal Swine Lung at High-power, Short-duration Settings.	Acta Med Okayama. 2022 Feb;76(1):57-62	Original Article
138	Yabe A, Okada M, Emilio Satoshi Hara, et al.	歯科 総合歯科部門	Self-adhering implantable device of titanium: Enhanced soft-tissue adhesion by sandblast pretreatment.	Colloids Surf B Biointerfaces. 2022 Mar;211:112283	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
139	Sakaida K, Omori K, Nakayma M, et al.	歯科 歯周科部門	The Fungal Metabolite (+)-Terrein Abrogates Ovariectomy-Induced Bone Loss and Receptor Activator of Nuclear Factor- κ B Ligand-Induced Osteoclastogenesis by Suppressing Protein Kinase-C α /betaII Phosphorylation.	Front Pharmacol. 2021 Jun;12:674366	Original Article
140	Arias Martinez Z, Lopez Videla J, Yamashiro K, et al.	歯科 歯周科部門	Use of Highly Accurate Devices for a First Lower Premolar Endodontic Treatment with Multiple Root Canals.	Acta Med Okayama. 2021 Oct;75(5):641-645	Case report
141	Kurosaki Y, Kimura-Ono A, Mino T, et al.	歯科 口腔インプラント 科部門	Six-year follow-up assessment of prosthesis survival and oral health-related quality of life in individuals with partial edentulism treated with three types of prosthodontic rehabilitation.	J Prosthodont Res. 2021 Aug;65(3):332-339.	Original Article
142	Tanaka Y, Kyaw TA, Ono M, et al.	歯科 口腔インプラント 科部門	Suppression of Bone Necrosis around Tooth Extraction Socket in a MRONJ-like Mouse Model by E-rhBMP-2 Containing Artificial Bone Graft Administration.	Int J Mol Sci. 2021 Nov;22(23):12823	Original Article
143	Okuni S, Maekawa K, Mino T, et al.	歯科 口腔インプラント 科部門	A retrospective comparison of the survival of vital teeth adjacent to single, bounded edentulous spaces rehabilitated using implant-supported, resin-bonded, and conventional fixed dental prostheses.	J Dent. 2022 Jan;116:103911	Original Article
144	Nosho S, Ono M, Komori T, et al.	歯科 口腔インプラント 科部門	Preclinical bioequivalence study of E.coli-derived rhBMP-2/ β -TCP and autogenous bone in a canine guided-bone regeneration model.	J Prosthodont Res. 2022 Jan;66(1):124-130	Original Article
145	Furutera H, Kawakami S, Kodama N, et al.	歯科 補綴歯科部門	Detection of muscle fatigue caused by repeated posterior tongue lift movement from neck surface EMG: a pilot study.	J Oral Rehabil. 2021 Dec;48(12):1337-1346	Original Article
146	Mori K, Manda Y, Kitagawa K, et al.	歯科 補綴歯科部門	Coordination of surface electromyography activity in the posterior tongue region during mastication of differently textured foods.	J Oral Rehabil. 2021 Apr;48(4):403-410	Original Article
147	Takeshita Y, Ibaragi S, Yutori H, et al.	歯科 歯科放射線科部門	The potential for facial artery injury during mandibular third molar extraction. An anatomical study using contrast-enhanced computed tomography.	Clin Anat. 2021 Nov;34(8):1215-1223	Original Article
148	Higuchi H, Takaya- Ishida K, Miyake S, et al.	歯科 歯科麻酔科部門	Comparison of Oxygen Saturation Between Nasal High-Flow Oxygen and Conventional Nasal Cannula in Obese Patients Undergoing Dental Procedures With Deep Sedation: A Randomized Crossover Trial.	J Oral Maxillofac Surg. 2021 Sep;79(9):1842-1850	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
149	Arimura Y, Minato Y, Wada T, et al.	口腔外科 顎口腔再建外科部 門	Attempt of thyX gene silencing and construction of a thyX deleted clone in a Mycobacterium bovis BCG.	Microbiol Immunol. 2022 Jan;66(1):10-14	Original Article
150	Ono K, Yoshioka N, Hage D, et al.	口腔外科 口腔顎顔面外科学 部門	Duplication of the external jugular vein: a language barrier of database search in classic anatomical studies.	Surg Radiol Anat. 2021 Oct;43(10):1721- 1728	Review
151	Obata K, Naito H, Yakushiji H, et al.	口腔外科 口腔顎顔面外科学 部門	Incidence and characteristics of medical emergencies related to dental treatment: a retrospective single-center study.	Acute Med Surg. 2021 May;8(1):e651	Original Article
152	Obata K, Okui T, Ono S, et al.	口腔外科 口腔顎顔面外科学 部門	Comparative Study on Epstein-Barr Virus-Positive Mucocutaneous Ulcer and Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorders Developed in the Oral Mucosa: A Case Series of 10 Patients and Literature Review.	Diagnostics (Basel). 2021 Jul;11(8):1375	Case report
153	Ono K, Okui T, Kunisada Y, et al.	口腔外科口腔顎顔 面外科学部門	A case of langerhans cell histiocytosis of the mandible that spontaneously regressed after biopsy in a child.	Clin Case Rep. 2021 Jun;9(6):e04321	Case report
154	Masui M, Ibaragi S, Okui T, et al.	口腔外科 口腔顎顔面外科学 部門	A rare anatomical variation of the submental artery.	Surg Radiol Anat. 2021 Nov;43(11):1805- 1808	Case report
155	Yoshida S, Inaba H, Nomura R, et al.	小児歯科	Efficacy of FimA antibody and clindamycin in silkworm larvae stimulated with Porphyromonas gulae.	J Oral Microbiol. 2021 Apr;13(1):1914499	Original Article
156	Naka S, Matsumoto- Nakano M.	小児歯科	Non-alcoholic steatohepatitis caused by oral bacteria.	Pediatric Dental Journal. 2021 Apr;31:11-16	Review

計156件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究者等の基本的責務、研究計画書の作成に関する手続き等、倫理委員会の活動、インフォームド・コンセントを受ける手続き等、個人情報保護法の安全管理、重篤な有害事象への対応、試料・情報の保管管理、モニタリング及び監査の実績、研究者等の教育研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年13回（倫理委員会） 年12回（臨床研究審査委員会）

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年21回
・ 研修の主な内容 ・ 医師、歯科医師等の特定臨床研究を行う者に対する研修会（10回）	

- ・ 特定臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者に対する研修会（8回）
- ・ 認定臨床研究審査委員会の委員に対する研修会（3回）

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各診療領域における専門医・各学会が認めた認定医の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を地域連携研修登録医等として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	369 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科・総合診療科	科長	30 年	内科
平岡 佐規子	消化器内科	副科長	28 年	科長代理
前田 嘉信	血液・腫瘍内科	科長	29 年	内科
木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	科長	39 年	内科
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	30 年	内科
伊藤 浩	循環器内科	科長	39 年	
山下 徹	脳神経内科	副科長	16 年	科長代理
藤原 俊義	消化管外科	科長	37 年	
八木 孝仁	肝・胆・膵外科	科長	39 年	
豊岡 伸一	呼吸器外科	科長	28 年	外科
枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	科長	23 年	外科
荒木 元朗	泌尿器科	科長	24 年	
笠原 真悟	心臓血管外科 小児心臓血管外科	科長	31 年	
野田 卓男	小児外科	科長	38 年	
尾崎 敏文	整形外科	科長	35 年	
木股 敬裕	形成外科	科長	38 年	
森実 真	皮膚科	科長	22 年	
森實 祐基	眼科	科長	24 年	
安藤 瑞生	耳鼻咽喉科	科長	22 年	
高木 学	精神科神経科	科長	27 年	精神科
伊達 勲	脳神経外科	科長	39 年	
森松 博史	麻酔科蘇生科	科長	28 年	麻酔科
塚原 宏一	小児科 小児血液・腫瘍科	科長	36 年	

小林 勝弘	小児神経科	科長	39年	
岩崎 達雄	小児麻酔科	科長	31年	麻酔科
増山 寿	産科婦人科	科長	35年	産婦人科
平木 隆夫	放射線科	科長	26年	
中尾 篤典	救急救命科	科長	29年	救急科
柳井 広之	病理診断科	科長	26年	
平沢 晃	臨床遺伝子診療科	科長	27年	産婦人科
白井 肇	歯科総合歯科部門	副部門長	32年	歯科 部門長代理
吉山 昌宏	歯科保存歯科部門	部門長	38年	歯科
高柴 正悟	歯科歯周科部門	部門長	34年	歯科
窪木 拓男	歯科口腔インプラント科部門	科長・部門長	36年	歯科
皆木 省吾	歯科補綴歯科部門	部門長	44年	歯科
森田 学	歯科予防歯科部門	部門長	36年	歯科
浅海 淳一	歯科歯科放射線科部門	部門長	38年	歯科
宮脇 卓也	歯科歯科麻酔科部門	部門長	34年	歯科
飯田 征二	口腔外科顎口腔再建外科部門	科長・部門長	36年	歯科口腔外科
伊原木 聡一郎	口腔外科口腔顎顔面外科部門	副部門長	19年	歯科口腔外科 部門長代理
上岡 寛	矯正歯科	科長	33年	
仲野 道代	小児歯科	科長	29年	
千田 益生	総合リハビリテーション部	部長	39年	リハビリテーション科
曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	部長	23年	歯科
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長	34年	歯科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署、チーム等において、多職種の連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 前田 嘉信
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫、放射線部長 平木 隆夫、医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 塚原 宏一、薬剤部長 座間味 義人、看護部長 岩谷 美貴子、総務課長 恒國 昭二、企画・広報課長 石尾 裕則、医事課長 上廻 真司、各診療科長・中央診療施設長

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の第三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子カルテで運用しているため、病歴資料についてはコンピュータによる集中管理を行っている。平成29年6月1日から文書管理システムを導入し、スキャナに取り込みされた紙文書については電子証明・タイムスタンプが付与され、電子カルテ上で原本として管理している。診療録の病院外への持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の第三第二項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	岡山大学病院総務課
		高度の医療の提供の実績	岡山大学病院医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	岡山大学病院総務課
		高度の医療の研修の実績	岡山大学病院総務課
		閲覧実績	岡山大学病院企画・広報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	岡山大学病院医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	岡山大学病院医事課、岡山大学病院薬剤部
	規則第一条の第十一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	岡山大学病院医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	岡山大学病院感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	岡山大学病院医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	岡山大学病院感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室、岡山大学病院医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	岡山大学病院企画・広報課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	岡山大学病院医事課
		医療安全管理部門の設置状況	岡山大学病院医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		監査委員会の設置状況	岡山大学法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	岡山大学病院医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	岡山大学法人監査室
		職員研修の実施状況	岡山大学病院総務課、岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	岡山大学病院総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 前田 嘉信
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 石尾 裕則
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階
閲覧の手続の概要 閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続きを行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療安全管理のための委員会・医療安全管理責任者の配置 ・ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 医療安全管理部 ・ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品・医療機器等についての安全管理 ・ 内部通報窓口の設置 ・ 外部監査の実施 ・ 特定機能病院間におけるピアレビュー ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： - 次の各事項を審議する。 ・ 病院における医療安全管理に関する重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること（省令第一条十一ニロについて実施） ・ 定期的な事故防止対策に関する調査及び方策の見直しに関すること（省令第一条十一ニハについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 『入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況』及び『入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況』が不十分な場合における適切な報告のための研修及び指導に関すること（省令第一条十一ニロ、ハについて実施） ・ その他医療安全管理に関すること（省令第一条十一ニイ、ロ、ハについて実施）	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 「医療と安全－医療安全に関する最新の知見－」外（全職員対象共通内容） 2) 「RRSについて」外（感染制御部との合同職員全体研修、全職員対象共通内容） 3) 「心肺蘇生法」（全職員対象共通内容）	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ マニュアルの整備
 - ・ インシデントレポートシステム
 - ・ ペイシェントセーフティマネジャー（当時の呼称は「リスクマネジャー」）の配置
 - ・ 医療安全管理委員会の設置
 - ・ 医療事故等調査委員会
 - ・ 医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 委員会について 3) 感染制御部の業務内容 4) 院内感染対策のための職員教育及び研修 5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針 7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9) 他施設との感染対策地域連携に関する基本方針 10) 一種感染症指定病院としての基本方針 11) 一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年76回
・ 活動の主な内容： ・ 感染予防対策委員会 1回／月 合計 12 回 ・ ペイシェントセーフティマネジャー会議（この中で ICT 全体会議と医療安全会議を行う） 1回／月 合計 12 回 ・ 感染制御部職員会議 1回／月 合計 12 回 以上3委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。 ① 耐性菌サーベイランス、侵襲的処置別感染症サーベイランス ② 感染予防対策立案と指導、マニュアルの管理 ③ 抗菌薬使用の管理 ④ ICT（リスクマネジャーが ICT メンバーを兼ねる）との連携 ⑤ 重症感染症、特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦ 針刺し、体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核、流行性疾患など） ⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導、環境整備に関する管理と指導 ⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与 ・ 看護部感染対策委員会 1回／月 合計 12 回 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 感染防止の視点からの看護手順の作成 環境整備の状況把握と指導 ・ 新型コロナウイルス対策会議 1回/週 合計 40 回 ・ 新型コロナウイルスコア会議 適宜 COVID-ICT チーム、COVID-ERT（重症集中）チーム、COVID-BCT（ベッドコントロール）チーム 新型コロナワクチンWG、COVID-ICTコア会議、陽性者対応臨時会議	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年6回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 全職員対象院内感染対策講習会 2回／年（各会1回、②は医療安全研修会と合同開催） ①針刺し事故防止について、結核の院内感染予防について、アンチバイオグラムと薬剤耐性菌の検出状況、標準予防策 ②RRSについて、新型コロナウイルス感染症の現況と秋以降への対応、数値で視る抗菌薬適正使用 2) 新規採用者研修 1回 3) 看護補助者に対する研修会 1回 標準予防策 講義 4) 臨床実習前の学生への講義 2回	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染予防対策委員会、ペイシェントセーフティマネジャー会議、看護部感染対策委員会、看護師長会などを通じて毎月重要な情報伝達と周知を行っている。 ・ 感染制御部NEWSを1回／2ヶ月のペースで配信し、流行している疾患の情報や新規作成または改訂したマニュアルの情報提供を行っている。また、随時、所属長宛にその都度メール配信して注意喚起や情報提供を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容： 令和3年4月 新規採用職員オリエンテーション－医療事故防止について（薬剤部）－ 令和3年8月 麻薬の適切な管理について、麻薬事故の具体的な事例について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品の採用・購入・管理 ・ 病棟・各部門への医薬品の供給 ・ 患者への医薬品の使用 ・ 病棟等における医薬品の管理 ・ 医薬品情報の収集・管理・周知 ・ 他施設との連携 ・ 放射性医薬品の管理 ・ 院内製剤の運用 ・ 重大な有害事象の予防および対応（事故発生時の対応，教育・研修） ・ 医薬品関連の情報システムの利用
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 3, 4-ジアミノピリジン：ランバートイートン筋無力症候群 LOXO-195：NTRK融合遺伝子をもったグリア神経細胞腫瘍 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 院内処方箋および注射処方箋への検査値の表示 調剤および監査時における医薬品の適正使用推進を目的として処方箋および注射処方箋に検査値を表示する体制とした。 2) 薬剤部eラーニングの開始 麻薬、カリウム注射剤、鎮痛鎮静薬に関するeラーニングを導入し、全薬剤師の受講を必須とした。 3) 薬品マスタ等の整理 指示簿内の薬品マスタ、処方オーダー時の用法マスタ（デフォルト用法の設定）、さらには自動展開コメント等の薬品マスタを整理し、指示オーダーおよび処方オーダー時のリスク軽減を行った。 4) 医療安全強化月間の設定 医療安全管理部と協働し、院内における誤薬誤投与防止を目的に啓発ポスターの作成および病棟ラウンドを実施した。 5) その他 ・ 医薬品の適正使用等に関連する情報を院内情報誌（DI-News）の作成（昨年度：12報） ・ PSM会議における医薬品の安全使用に対する警鐘事例の報告（昨年度：12例） ・ 医薬品による有害反応の重篤化の回避、未然回避、さらには薬物治療効果の向上に貢献した事例および発生状況の分析および評価の報告（昨年度：12回） ・ 薬剤部リスクマネジメント委員会の開催（昨年度：12回開催）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年66回
・ 研修の主な内容： ・ 定期研修 ・ M R I 装置の安全性 ・ 放射線治療装置の安全管理 ・ R A L S 緊急時マニュアル ・ マイクロセレクトロン HDR-V2 の安全性 ・ 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講(学会主催のもの) ・ 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について ・ 血液浄化装置： 同 上 ・ 除細動装置： 同 上 ・ 閉鎖式保育器： 同 上 ・ 注入ポンプ（P C A ポンプ）： 同 上 ・ 新しい医療機器導入時の研修 ・ 循環器用 X 線透視診断装置 ARTIS icono D-Spin の新規導入説明会 ・ 移動型 X 線透視診断装置 CiosFlow の新規導入説明会 ・ 移動型 X 線透視診断装置 Cios Select の新規導入説明会 ・ 人工呼吸器 ・ 栄養専用シリンジポンプ ・ 整形外科ナビゲーションシステム ・ 操作方法の説明（i-densy IS-5320 アークレイ社） ・ 操作方法の説明（cobas z480 ロシュ・ダイアグノスティックス社） ・ US3500（栄研化学株式会社）用途：尿定性検査 ・ UF5000（シスメックス株式会社）用途：尿中有形成成分分析検査 ・ OC-SENSOR PLEDIA（栄研化学株式会社）用途：便ヘモグロビン検査 ・ 超音波診断装置の操作説明会 ・ GeneXpert（ベックマンコールター）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ X 線 装 置：定期点検（機種により年 1～4 回）、使用前点検 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置：定期点検（年 4 回） ・ 診療用放射線照射装置：定期点検（年 1 回） ・ 人工心肺装置：定期点検（年 1 回）、日常点検（始業点検/終業点検） ・ 人 工 呼 吸 器：定期点検（年 2 回）、使用前点検 ・ 血液浄化装置：定期点検（年 2 回）、使用前点検、透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定、細菌培養（毎月） ・ 除 細 動 装 置：定期点検（年 2 回） ・ 閉鎖式保育器：定期点検（年 1 回） ・ 臨床検査機器装置：定期点検（機種により 1～3 回/年）、日常点検（始業時、終了時点検）	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：
 - ・ 門脈圧亢進性胃腸症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術時の短絡経路を確保するため、未承認のステントを使用（未承認新規医薬品・医療機器評価委員会20210727承認）
 - ・ 脾神経内分泌腫瘍に対する超音波内視鏡ガイド下エタノール焼灼術を施行するため、未承認の超音波ガストロビデオスコープ等を使用（未承認新規医薬品・医療機器評価委員会220211027承認）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集
 - ・ 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 PMDA 医療安全情報
 - ・ 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTER からの情報収集
 - ・ 経腸栄養ポンプ（TOP-600）空液アラームについて（注意喚起資料配布）
 - ・ シリンジの誤った装着によるインシデント事例への対応（注意喚起資料配布）
 - ・ 人工呼吸器の使用中止インシデント事例への対応（関連部署への情報共有）
 - ・ ECMO 電源コードを誤って抜いた事例への対応
 - ・ 体外式ペースメーカー接続ケーブル断線事例への対応

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
・責任者の資格（<u>医師</u>）歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の各業務について確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑（2名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内における医薬品の使用状況や副作用情報等の医薬品の関する情報の収集、整理、周知は薬品情報室で管理・運用している。薬品情報室では、得られた情報を必要に応じて院内情報誌（DI-News）へ掲載し、診療科および診療部門へ情報提供を行っている。とくに、緊急安全性情報（イエローレター）や安全性速報（ブルーレター）等の緊急性が高い情報については、薬剤部門システムより当該医薬品の使用歴を抽出し、当該薬品の使用経験のある医師に対して直接的に連絡できる体制を整備している。また、院内で発生した有害反応の未然回避および重篤化回避した事例についてはその内容を検証し、「警鐘事例」としてPSM会議および医療安全管理委員会で報告している。 造影剤の有害反応情報については、診療情報管理室から定期的に情報提供を受け、医薬品安全管理責任者へ報告を実施している。 医薬品に関する情報の周知の状況を確認する手段としては、薬剤部から情報提供する際に「医薬品情報に関する確認書」を送付し、確認書の返答をもって院内の周知状況を確認している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品情報については、未承認新規医薬品・医療機器安全管理部門、さらには薬事委員会から情報提供を受けている。また、薬剤師が調剤、抗がん剤の混合調製、さらには病棟薬剤業務を実施する中でもこれら情報を収集している。 薬剤師が未承認等の医薬品情報を把握した際は、処方医に対して、処方の必要性、リスク対策、さらに処方の妥当性について確認を行っている。薬剤師が把握した未承認薬等の情報については、薬剤部内で一元管理を行い、その情報は定期的に医療安全管理責任者へ報告している。 ・担当者の指名の有無（☑・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部、職種 副薬剤部長 ） （所属：薬剤部、職種 薬品情報室主任）	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセントに係る責任者は、副病院長（診療（医科）担当）をもって充てる。 インフォームド・コンセントに係る責任者は、インフォームド・コンセントに関することについて、必要に応じて、診療科長等会議において報告及び指導を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 2020 年度より、（岡山大学病院における診療記録の多職種による監査の運用に関する申合せ）の規定に基づいて、診療記録管理委員会で承認された、多職種監査チームによる監査を実施している。診療情報管理室では退院 1 週間後を目途に退院患者全体に対して量的監査（入院診療計画書、手術記録、退院時要約など）を実施している。加えて、質的監査も多職種監査とは別に、監査項目数を増やして実施している。監査結果については「診療記録の監査に関する小委員会」で報告、小委員会の委員長より診療科長等会議にて院内周知を行っている。また、IC 項目については IC 委員会へ報告を行っている。 主な指導内容としては、退院時要約の記載について、不備のない同意書の記載について、不備のない入院診療計画書の記載について、経過記録への記載についてなど。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（4）名、専任（3）名、兼任（30）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（17）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 一 医療安全管理委員会に係る事務に関すること。 二 事故、入院患者の死亡及びレベル 3b 以上のインシデント等病院長が認める事象が発生した場合における診療録の確認、患者又は家族への説明、当該事象の発生の原因	

究明と対応状況確認及びそれに基づく必要な指導に関すること。

三 医療に係る安全管理に関する連絡調整に関すること。

四 医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。

五 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。

六 医療事故調査等支援団体に関すること。

七 その他医療事故の防止・医療の安全性の向上に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0 件）、及び許可件数（0 件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

評価委員会の設置（医療安全管理部門の医師等を構成員に含む。）

業務（提供の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、適用症例の事後検証など）

構成員（手術を行う部門（外科系）に所属する職員含む。）

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（31 件）、及び許可件数（31 件）

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

評価委員会の設置（医療安全管理部門の薬剤師を構成員に含む。）

業務（使用の条件及び使用の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、使用症例の事後検証など）

構成員（医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を含む。） ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 162 件 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 85 件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療事故の防止及び対策、医療事故防止マニュアルの作成、医療事故防止の教育・研修、及び警鐘事例周知、インシデントレポート件数の把握、3b 以上の把握等
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
・ 他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：徳島大学（紙面調査）） ・ 無） ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：愛媛大学（紙面調査）） ・ 無） ・ 技術的助言の実施状況 高難度新規医療技術について、「管理部門と評価委員会との位置づけ」・「報告を求める症例数の決定方法」ほか数点の疑義照会があり、それに対して回答を行った。 その他、技術的助言はなかった。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・ 体制の確保状況 ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置 ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な取り決め ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知
⑫ 職員研修の実施状況
・ 研修の実施状況 令和3年度は、令和3年4月2日に新規採用職員オリエンテーション「医療事故防止について 等」について研修を実施した。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2021 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）を下記の日程で受講した。

管理者（前田 嘉信）：2021 年 11 月 10 日

医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者（塚原 宏一）：2022 年 1 月 19 日

医薬品安全管理責任者（座間味 義人）：2021 年 12 月 15 日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和元年度に、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、主に以下 2 点の整備が当院に必要との指摘があった。

① 急変前兆候を捉えて対応する仕組み

② 侵襲的処置において確実・安全に鎮静剤・鎮痛剤を使用するための体制

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて公表

・評価を踏まえ講じた措置

指摘に対し、院内にWGや委員会を立ち上げ、体制確保に向けた準備を行い、現時点で以下までの措置を講じた。

① 当院でのラピッドレスポンスシステム（RRS）の稼働を決定し、2021 年 10 月より本格的に運用を開始した。

② 鎮静剤・鎮痛剤について麻酔医の管理外での使用を安全が担保されるまで全面禁止した。
使用開始に向けて、医療者教育と並行し、鎮静剤・鎮痛剤を使用する検査や処置を行う医療者対象の院内認定制度を創設し、2021 年 9 月から制度を稼働した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 ○人格が高潔で、学識が優れ、教育及び医療に関し高い見識を有すること。 ○リーダーシップを発揮し、本学の運営方針に基づき、病院運営にあたる者として、学長と基本的な方向性を共有していること。 ○医療法その他関係法令に基づく管理者として求められる能力及び経験を有する者であること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法 - 大学ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			④・無
・合議体の主要な審議内容 合議体として、診療科長等会議を設置しており、病院長の諮問に応じ、次の事項を審議している。 ・ 病院の運営の方針に関する事項 ・ 病院の中期計画に関する事項 ・ 病院の予算編成及び決算に関する事項 ・ その他病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 会議の資料を院内HP（学内限定）に掲載している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・④） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・④）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 （○を付す）	職種	役職
前田 嘉信	○	医師	病院長、副病院長、診療科長、教授、センター長
森実 真		医師	副病院長、診療科長、教授、部長
大塚 文男		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、センター長
増山 寿		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、センター長、室長
浅海 淳一		歯科医師	副病院長、部門長、教授、部門長、室長
伊野 英男		医師	副病院長、教授
上岡 寛		歯科医師	副病院長、診療科長、教授
塚原 宏一		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、室長
岩谷 美貴子		看護師	副病院長、看護部長
木浦 勝行		医師	診療科長、病院教授
和田 淳		医師	診療科長、教授、部長、センター長
伊藤 浩		医師	診療科長、教授

草野 展周		医師	診療科長、病院教授
藤原 俊義		医師	診療科長、教授、センター長
八木 孝仁		医師	診療科長、病院教授
豊岡 伸一		医師	診療科長、教授、センター長、バンク長
枝園 忠彦		医師	診療科長、准教授
荒木 元朗		医師	診療科長、准教授、室長
笠原 真悟		医師	診療科長、教授、部長
野田 卓男		医師	診療科長、病院教授
尾崎 敏文		医師	診療科長、教授
木股 敬裕		医師	診療科長、教授
森實 祐基		医師	診療科長、教授、センター長
安藤 瑞生		医師	診療科長、教授
高木 学		医師	診療科長
伊達 勲		医師	診療科長、教授
森松 博史		医師	診療科長、教授、部長、センター長
小林 勝弘		医師	診療科長、教授
岩崎 達雄		医師	診療科長、病院教授
松井 裕輔		医師	診療科長、准教授
岡田 あゆみ		医師	診療科長、准教授
平木 隆夫		医師	診療科長、教授、室長、部長、センター長
中尾 篤典		医師	診療科長、教授、センター長
柳井 広之		医師	診療科長、病院教授
田端 雅弘		医師	診療科長、病院教授、センター長
平沢 晃		医師	診療科長、教授
吉山 昌宏		歯科医師	部門長、教授
高柴 正悟		歯科医師	部門長、教授
窪木 拓男		歯科医師	診療科長、部門長、教授、室長
皆木 省吾		歯科医師	部門長、教授
森田 学		歯科医師	部門長、教授
宮脇 卓也		歯科医師	部門長、教授
飯田 征二		歯科医師	診療科長、部門長、教授

仲野 道代		歯科医師	診療科長、教授
千田 益生		医師	部長、病院教授
松川 昭博		医師	部長、教授
加藤 博也		医師	部長、准教授
曾我 賢彦		歯科医師	部長、准教授
四方 賢一		医師	病院教授、部長
稲垣 兼一		医師	センター長、准教授
難波 祐三郎		医師	病院教授、センター長
平岡 佐規子		医師	センター長、准教授
西田 圭一郎		医師	センター長、准教授
江草 正彦		歯科医師	病院教授、センター長
柳 文修		歯科医師	室長、教授
郷原 英夫		医師	病院教授、部長
片岡 仁美		医師	病院教授、センター長
大月 審一		医師	病院教授
王 英正		医師	病院教授
渡部 昌実		医師	病院教授
堀田 勝幸		医師	病院教授
座間味 義人		薬剤師	病院教授、薬剤部長
本田 貢		放射線技師	医療技術部長
仲井 精一		事務	事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学のホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 病院長は、病院の管理及び運営に必要な人事（岡山大学長が任命権を有するものを除く。）及び予算執行権限を有する。
 病院長は、病院の運営の方針、中期計画、予算編成、決算及びその他の病院の運営に関する重要な事項については、診療科長等会議の議を経て決定する。
 病院長は、病院の管理運営に関することをつかさどり、所属職員を監督する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 副病院長は、病院長を助け、病院長の職務を円滑に遂行させるため、それぞれ次の業務を分担している。
 (1) 総務運営担当 (2) 企画・SDGs 担当 (3) 診療（医科）担当
 (4) 診療（歯科）担当 (5) 教育（医科）担当 (6) 研究（医科）担当
 (7) 教育・研究（歯科）担当 (8) 医療安全管理担当 (9) 看護・患者サービス担当
 病院長補佐は、病院の経営分析及び経営改善に関し、提案及び助言を行い、病院長の職務を助けている。
 広報については、事務部に企画・広報課を置き、対応している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 特定機能病院管理者研修に管理者、医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者が参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回（令和 4 年度第 1 回委員会を令和 4 年 6 月 10 日に実施、第 2 回委員会を令和 4 年 11 月 18 日に開催予定） ・ 活動の主な内容： ○病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。 ○安全管理状況及び改善状況について審議する。 ○病院の業務状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。 ○審議の結果に基づき、学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。 ○審議の結果及び監査意見を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：ホームページに掲載					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会 （会長）	○	医療に係る安全管理 に関する識見を 有するため	有・無	1
長谷川 威	岡山中央法律事 務所（弁護士）		法律に関する識見 を有するため	有・無	1
清板 芳子	ノートルダム清 心女子大学（名 誉教授）		医療を受ける者の 代表者	有・無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人岡山大学内部統制規則に基づき、業務の有効性及び効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、事業活動に係る法令等遵守の促進並びに資産の保全を図るため、当該組織及び所掌する業務における内部統制の整備及び運用状況について、内部統制委員会に定期的に報告を行うこととしている。内部統制委員会では、定期的に報告される内部統制の整備及び運用状況に基づき、是正措置を講じた内容等について、必要に応じて当該措置の妥当性の検証を行っている。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ ・ 無)

・ 公表の方法

大学ホームページにて公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）の規定に基づき、経営協議会を設置して、中期計画及び年次計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、並びに予算の作成、執行及び決算に関する事項として病院を含めた法人の経営に関する事項を審議している。 その他に大学内に病院の管理者を含めた大学の役員等を構成員とした大学経営戦略会議を設置し、病院の経営状態を報告している。 ・ 会議体の実施状況（経営協議会 年7回 大学経営戦略会議 年42回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ ・ 無 ） （経営協議会 年7回 大学経営戦略会議 年42回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法 経営協議会について、会議の規程、委員名簿及び議事要旨を、大学ホームページにて公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 周知の方法 ○ ホームページに掲載 ○ 医療安全ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	⑦・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信をしている。 市民等を対象とした公開講座等の開催している。 病院HPにおいて診療体制や診療データ等について情報発信をしている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	⑦・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科等の連携によるセンターの設置をしている。 複数の診療科で構成する中央診療施設の設置をしている。	